

ゆうでんかい、 YUDENKAI

大阪電気通信大学友電会
大阪電気通信大学同窓会組織

The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University



表紙：宮古市鎌ヶ崎小児童が「頑張る宣言」 夢に向かって力強く頑張る子供たち

特集

岩手・宮古市から母校へ心のメッセージ届く
学園同窓会、復興の担い手、宮古工高生徒を招待
就職支援活動始動

大阪電気通信大学・大阪電気通信大学高等学校 入試情報

No.116

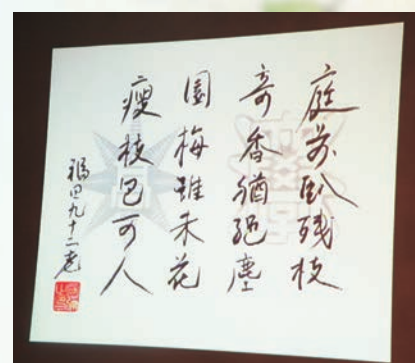
2012/10



法人顧問
竹内 讓 衆議院議員
福田國彌 理事長
橘 邦英 学長
藤田智一 校長

平成24年度友電会通常総会と緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会4団体による合同懇親会が6月23日、大阪市北区の大阪ステーションシティ、「ホテルグランヴィア大阪」で開催されました。懇親会に先立ち、母校の福田國彌理事長、法人顧問 竹内 讓衆議院議員、橘 邦英学長、藤田智一校長を囲んで各団体は記念写真を撮りました。

懇親会場では、福田理事長の実学の理念がスクリーンに映し出されていました。



「中興の祖」 福田國彌理事長書

学園の菊の枝は地に臥していても、
学園の香りは世俗の塵をうけない。
学園の梅はまだ花開かないが、
痩せ枝でも力があって人を包んで育てる。

ゆうでんかい

大阪電気通信大学・同窓会組織 友電会会誌

編集室より／友電会ホームページに掲示板	03
初の企業家懇談会を開く	04
福田理事長、橘学長ら大学関係者と19名のOB企業家参加 今秋頃に「企業家クラブ(仮称)」発足へ 懇親会／企業家懇談会参加者一覧	
学園同窓会が総会・合同懇親会を開催	07
平成24年度 友電会通常総会報告 緑樹会 平成23年度年次報告会 開催 同窓会総会・懇親会開催報告 「クラブ同窓会 平成24年度通常総会」開催 カンパを募り宮古工業高校生を招待	
友電会記念講演会	10
「学園の将来を語る～心はひとつ～」 ● 実学をベースに夢を形にできる教育システム構築 ● 就職に強い「電通大」のブランド化を目指す	
合同懇親会	20
● 支援の和船贈った宮古市からビデオレター ● 友電会会員カンパで招待の宮古工業高校生使ら交流 ● 福田國彌理事長には感謝の海産物 ● 「心はひとつ」テーマに4団体共催の懇親会 電通高校生と交流	
宮古周辺の津波被害と実演会	23
「キャリア支援講座」にOB講師派遣	24
支部だより	28
■ 友電会びわこ支部総会 ■ 神戸支部総会・懇親会 ■ 友電会三田支部総会 ■ 友電会東海総支部七日島研修会報告 ■ 友電会北関東支部総会報告	
TOPIX トピックス	30
■ 同窓から朗報・母校復興支援で寄贈の和船3隻の活躍ぶりが届く ■ 「丹後半島ラリー 2012」丹後半島で初の全日本ラリー ■ 神戸支部がロボット製作講習会 ■ 大阪電気通信大学文化会クラブ「ESS同窓会」報告 ■ 松尾邦子准教授の夫、有起氏が逝去。しめやかに葬儀・告別式	
大阪電気通信大学・大阪電気通信大学高等学校 入試情報	32
東日本大震災 復興支援報告	33
宮古市からのメッセージ ～こころはひとつ～	
宮古工業高校一行の神戸巡り	34

■ 会誌への投稿や事務局への連絡等は E-mail か FAX. で
友電会事務局 FAX:072-824-1197
E-mail:yudenkai@yudenkai.org

2012年10月1日 第116号

発行所／大阪電気通信大学友電会 (大阪電気通信大学同窓会組織)

YUDENKAI The Alumni Association of
Osaka Electro-Communication University

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18 番 8 号
18- 8 Hatsu-Machi Neyagawa-City Osaka Japan 572-8530
(友電会直通) TEL : 072-824-3111 FAX : 072-824-1197
(大学代表) TEL : 072-824-1131 内線 3266
郵便振替番号 00990-5-49361

発行責任／友電会会長 猿渡 洋

編集責任／友電会広報部会長 田中 稻夫

編集／野田 鐘一、藤田 英治、尼丁 正 寄、井野川 一

資料提供／学校法人大阪電気通信大学、大阪電気通信大学事務局他

寄贈先／大阪電気通信大学関係先をはじめ他大学同窓会

並びに国立国会図書館逐次刊行物部、その他

購読料／1年間 500円 (卒業後3年間は無料配布、総会通知号は全会員に)

印刷／ダイコロ株式会社



友電会ホームページに掲示板

友電会のホームページに「友電会掲示板」のコーナーを設けております。会員の皆さんからの自由な意見を掲載、同窓の集いの広場になれば一と思っています。母校発展に寄与する建設的なアイデア、提案も歓迎です。卒業以来、母校から遠ざかっている会員の方は、是非、近況報告も兼ねた意見をお寄せ下さい。

編集室より

ロンドン五輪で日本柔道の金メダルは1個に終わった。お家芸の種目としては惨敗といえる。苦戦の要因はこれから検証されるだろうが、女子63kg級で2004年アテネ、2008年北京の両五輪を連覇した谷本歩実さんは興味深い発言をしている。「私の現役時代には手本になる先輩がいた…背中を見て学んだ」というもので、代表選手らは本番前合宿で、谷本さんに技術や戦術ではなく五輪の雰囲気や五輪での勝ち方を聞いてきたと明かしている。

実は、同じような話がある。就職などで学生に対する親の関心の薄さについて、「お前に任せるという親が多い。とくに父親は重要なのに…」と。匠の技は技術だけでなく、考え方も伝承されている。

親から子へ、各家庭で文化や考え方の引き継ぎの欠落が指摘されて久しい。その結果が「打たれ弱く、自身の進路を決められない学生」の増加に繋がっている。友電会メンバーが講師になって後輩に自分のキャリアを通して就職の大切さや社会での生き方を講義する「キャリア支援講座」は、そうした問題解決に大きく役立つ。就職に強い大学は入学(学生獲得)にも強い。柔道の落日から母校発展への道もうかがえる五輪だった。

初の企業家懇談会を開く

近郊の同窓だけでなく東京からも参加した企業家懇談会。
大学や学生に対し多くの要望が出されていました。



福田理事長、橘学長ら大学関係者と19名のOB企業家参加 今秋頃に「企業家クラブ(仮称)」発足へ

就職支援や産学連携など学園の発展を目指す「企(起)業家懇談会」が6月22日(金)、寝屋川キャンパスA号館大会議室などで行われました。

友電会会員のOB企業18社と大学側から福田國彌理事長らも出席、秋頃に「大阪電気通信大学企業家クラブ(仮称)」の立ち上げを目指すことを確認しました。懇談会の後、会場を移して懇親会を開催、打ち解けた雰囲気の中で忌憚のない意見を交換しました。

友電会がOB企業家と大学側に呼び掛けて実現しました。OB企業家の参加は18社19名、大学側からは福田理事長、橘 邦英学長をはじめ森 幸治就職部長ら7人が出席しました。

大学と手を携え発展に寄与したい

猿渡 洋会長は「就職時期を迎え、友電会として学校法人に協力したいという思いで、会社役員をやっておられる皆様に協力をお願いしました。友電会4万6千名の力を結集して大学の発展に寄与したいとの思いです。有効な意見交換をお願いします」とあいさつしました。



「友電会の力を集め就職支援活動を行い、大学発展に寄与したい」と挨拶する友電会 猿渡会長

これに応え、福田理事長が「大学が永続して反映させるため、ご支援を頂きたい」と話し、橘学長も少子高齢化、就学力や就業力の低下など若者の意識構造など、社会環境の変化を例に「日本を元気にするために若者に生活力を付けることが重要。いろんな面から諸先輩の意見を賜りたい」と、OB企業家に積極的な発言を求めました。



「大学が永続して反映させるため、ご支援を頂きたい」と挨拶する福田理事長

従業員の約15%が母校卒業生という企業のトップ、中



「若者に生活力を付けることが重要。諸先輩の意見を賜りたい」と出席者の発言に期待を寄せる橋学長

山 修氏(F06)が急激なグローバル化に触れ「英語など少なくとも3カ国語を話せる人材が求められています。母校も科学技術のみならず語学力を備えたエンジニアの育成を」と述べました。山崎貞彦氏(E10)も「何か付加価値をつけないと差がつかない」と他大学との差別化の大切さが必要と訴えていました。

母校の学生が欲しい」と、ともに今回の懇談会を喜んでいました。

一方、継続して採用している企業もありました。吉本裕行氏(F13)は「母校の学生は毎年、入社試験を受けにきています」。大上 響氏(I29)は「40人の社員のうち1人が電通大卒業生」とすでに接点を持っていることを紹介しました。橋本昌典氏(E13)と三谷康之氏(E14)は、「母校卒業生ばかりで起業して27年経ちました。同窓だからこそ、ここまでやってこれたと思っています」と、同窓の絆の強さを強調していました。

起業への誘いもありました。本多昭文氏(F07)は「起業を目指す若者に興味を持っている。応援・支援をしたい」。森和明氏(H09)、山田耕司氏(E09)は、それぞれの企業の説明をしながら「これからも、いろんな意見を聞かせてもらいたい」と、今後の懇談会に期待していました。

何をやりたいか、目的を持ったパワーのある学生を

即戦力を求める意見もありました。山田利明氏(K15)は「即戦力のある学生はほとんどいない。優秀なモノづくりのセンスが残る高専に切り替えた」と現場の実情を紹介、そのために「高校から大学までの一貫した技術教育をしてみては」と提案しました。

モノづくりの大切さについては杉井清秀氏(F11)が「若い人と一緒に面白がってやっていきたい。それにはパワーが必要」と話しました。モノづくりと合わせ、キャリア教育の必要を説いたのは栗津正啓氏(E02)。「何をやりたいのか分からない学生が多い。人間としての育成にも目を向けて」と提案しました。

母校と連携、着実に歩を進めたい

大学と企業との連携についての意見もありました。吉年慶一氏は就職率アップに触れ、「時間はかかるが大学と企業が一緒になって地道にやっていく必要がある」と話しました。東京で産学連携のモノづくりを実践しているという足立秀之氏(J25)は「昨年、大阪に営業所を出したので大阪でもやってみたい」と母校などとの連携を示唆しました。

母校との接点を求める意見もありました。野田和利氏(E14)も「うちには私と30代半ばの電通大卒業生が2人いる。しかし、大学との関わりがなくなっていた。今後は

今後もキャリア教育を充実したい

インターンシップのシステムやキャリア教育の取り組みについて意見を聞かれた大学側は、「インターンシップの期間を長くしてもらいたい」「礼儀の問題に始まり、専門を活かすにはどうすればいいのか、人生をいかに考えるかなどの教育改革をやっている」と説明しました。





懇親会



この後、会場をZ号館の生協食堂に移し、懇親会を開催しました。懇親会には就職部の森部長のほか、不破信勝次長、今城まどか係長、それに大



森就職部 部長

学庶務課の早野秀樹次長、鈴木佑亮課長事務取扱といったメンバーも出席。中山 修・元友電会会長の乾杯の音頭で会場は一気に和やかな雰囲気の中、テーブルを囲み、あちこちで活発な意見交換が交わされました。

森部長は、「友電会会員のOBが講師

になっていただき、1、2年の大学生に自身の経験や人生訓を教授、起業した社長さん方の後ろ姿を見せるだけでも意味があります。今後とも宜しくお願いします」と、キャリア教育への協力を求めています。



◎ 企業家懇談会参加者一覧

	山崎 貞彦 (E10) 日本マイクロシステムズ 代表取締役社長 大阪府大阪市		臼井 宏 (E01) 大阪電子クラブ 会長 大阪府大阪市		橋本 昌典 (E13) 情報システム監査株式会社 代表取締役社長 大阪府大阪市
	三谷 康之 (E14) 情報システム監査株式会社 常務取締役 大阪府大阪市		栗津 正啓 (G26) 株式会社テクノエックス 常務取締役総務部長 大阪府大阪市		観野福太郎 (E04) 株式会社スリーシステム 代表取締役社長 東京都文京区
	山田 耕司 (E09) 東海化成品株式会社 代表取締役 大阪府八尾市		杉井 清秀 (F11) メタメディア株式会社 代表取締役 大阪府大阪市		吉本 裕行 (F13) 株式会社ステップワン 代表取締役社長 兵庫県神戸市
	中山 修 (F06) 株式会社オンテック 代表取締役 大阪府吹田市		大平 富義 (H08) 株式会社リモデルハウス 代表取締役 大阪府大阪市		森 和明 (H09) 富士コンピュータ販売株式会社 代表取締役社長 兵庫県加古川市
	山田 利明 (K15) 株式会社ハーテック 代表取締役 兵庫県伊丹市		奥田 由春 (K17) インフォテック株式会社 代表取締役 京都府京田辺市		足立 秀之 (J25) ヴィスコ・テクノロジーズ株式会社 代表取締役社長 東京都港区
	大上 響 (I29) ピーズ株式会社 代表取締役 大阪府東大阪市		本多 昭文 (F07) エルモソリューション販売株式会社 取締役副会長 大阪府大阪市		吉 年 慶一 株式会社SOAソリューションズ 顧問 大阪府守口市
	野田 和利 (E14) 株式会社ノダRFテクノロジーズ 代表取締役 大阪府吹田市				

(順不同、敬称略)

学園同窓会が総会・合同懇親会を開催

記念講演では橘・学長、藤田・校長が学園の将来を語る
岩手県宮古市から宮古工業高校生を招待、被害状況を聞く



「心はひとつ」をテーマに、学園4同窓会が平成24年6月23日、大阪市北区の大阪ステーションシティの「ホテルグランヴィア大阪」で、総会・記念講演会・合同懇親会を開催しました。

教職員OB同窓会の緑樹会は年次報告会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会はそれぞれ総会を開催。記念講演会では、「学園の将来を語る」をテーマに、今春就任された橘 邦英母校学長と藤田智一高校校長が目指すべき学園の将来について語られました。

学園は東日本大震災の被災地・岩手県宮古市に寄り添い、復興支援活動が続ける最中、友電会は同地から岩手県立宮古工業高校の生徒を招待、学園との橋渡しをしました。

平成24年度 友電会通常総会報告

24年度事業計画案など7議案可決
新役員、評議員決まる

平成24年度 友電会通常総会



「平成24年度友電会通常総会」は、6月23日(土)午前11時40分から、大阪市北区の大阪ステーションシティのホテルグランヴィア大阪・孔雀の間で開催、第1号議案から第7号議案を提案どおり承認されました。

成立条件447名に対して、委任状679名、出席者は暫定で61名の合計740名で総会は成立。議長に段安義彦氏(F06)を選出し、平成23年度決算・事業報告などの第1号議案から3号議案、平成24年度予算案、役員案の第4号議案から7号議案まで審議、承認されました。

新役員は以下のとおり。

◆平成24年度 友電会 役員◆

- ・会 長 猿 渡 洋 (F02)
- ・副 会 長 北 森 弘 樹 (E04) (事業部会担当)
川 口 明 良 (F04) (組織部会担当) 法人理事
大 平 富 義 (I08) (広報部会担当) 法人評議員
- ・事務局長 安 弘 (F01) (総務・財務部会担当)
- ・総務・財務部会 部会長 藤 本 明 (I06) 法人評議員
柴 垣 佳 明 (F28)
- ・組 織 部 会 部会長 志 村 哲 樹 (F07) 東海総支部長

議案

- 第1号議案 平成23年度事業報告
- 第2号議案 平成23年度収支決算報告
- 第3号議案 平成23年度一般会計剰余金処分案
- 第4号議案 平成24年度事業計画案
- 第5号議案 平成24年度収支予算案
- 第6号議案 平成24年度役員案
- 第7号議案 平成24年度評議員案

- 福 田 武 (E02) 九州支部長
- 村 瀬 収 吾 (E03) 京都支部長
- 山 口 文 男 (H07) 北関東支部長
- 辻 佳 彦 (H13)
- 池 本 善 一 (E02) 神戸支部長
- 稲 原 廣 法 (E07) 法人評議員
- 水 谷 元 也 (E08)
- 岡 本 清 孝 (H11)
- 山 崎 洋 一 郎 (H10)
- 田 中 稻 夫 (F06)
- 野 田 鐘 一 (F07)
- 尼 丁 正 寄 (F08)
- 藤 田 英 治 (E22)

・事業部会 部会長

・広報部会 部会長

●監事…3名

上 杉 靖 男 (E02)、藤 原 公 彦 (E04)、西 尾 博 道 (F26)

●顧問…4名

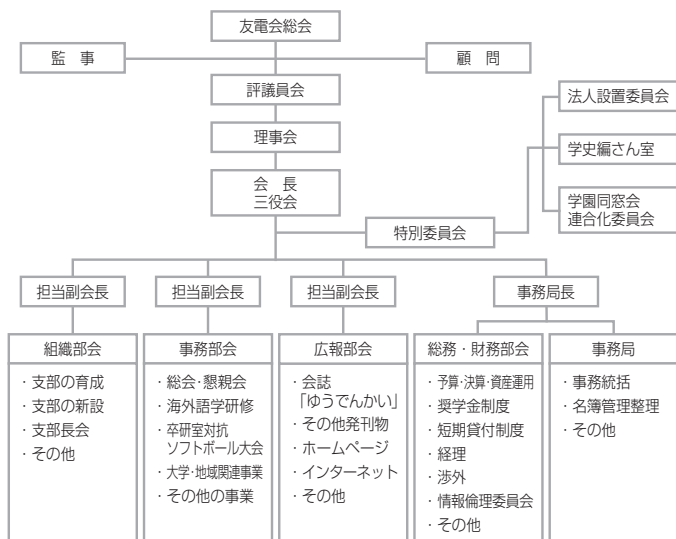
白 井 宏 (E01)、宮 本 公 明 (F03)、中 西 義 一 (E04)、
中 山 修 (F06)

●法人評議員(友電会評議員会選出)…2名

観野福太郎(E04)、廣 谷 明 (F12)



大阪電気通信大学友電会 組織図



緑樹会 平成23年度年次報告会 開催



緑樹会(学校法人大阪電気通信大学の退職教職員の親睦団体)は、平成23年度の年次報告会と合同の懇親会を6月23日(土)、大阪駅前の「ホテルグランヴィア大阪」にて開催いたしました。

緑樹会年次報告会については、開催の場所が集まりやすい場所であったのか、43名の参加を得て盛会に開催することが出来ました。

懇親会は今年度、友電会(大学の同窓会)様からの呼びかけにより、大阪電気通信大学高等学校の同窓会様と大阪電気通信大学クラブ同窓会様の4団体合同の開催となりました。今回、合同懇親会の呼びかけの意図は、法人・大学が3・11東日本大震災の被災地「岩手県宮古市」の支援活動を実施されていることに関連して、学園同窓会も合同で何か支援活動に取り組みませんか、との呼びかけにより実現されたものです。

具体的には、大学の卒業生(友電会員)が勤務していた「宮



古工業高校」に対する支援をメインとして、生徒・先生を懇親会に招待し、懇親会において被災の体験を報告していただき、復興に対する激励と支援カンパの贈呈を行いました。

年次報告会に続いて、大学橘新学長、高校藤田新校長による就任に伴う抱負報告の講演、宮古工業高校の生徒3名による被災体験報告に参加させていただき、合同懇親会に参加させていただきました。旧交を温める会員また卒業生との再会を懐かしむ会員など、参加された会員の皆様は、素晴らしい環境の中で実り多い体験をされた一日であったと感じます。

(緑樹会副会長 新宅 寛)

同窓会総会・懇親会開催報告

大阪電気通信大学高等学校同窓会は、平成24年6月23日(土)に、ホテルグランヴィア大阪において、平成24年度総会・懇親会を開催しました。

今年の総会・懇親会の開催につきましては、友電会(大学同窓会)様からの「法人・大学が3.11東日本大震災の支援活動を展開していることに関連して、同窓会も合同で何か支援活動を一緒に取り組みましょう」との呼びかけにより、学園の同窓会【緑樹会(退職教職員)の同窓会、クラブ同窓会(大学卒業生でクラブ活動経験者の会)、友電会と高校同窓会】が一堂に会して合同懇親会を開催した。

合同懇親会において、法人・大学が支援活動を行っている岩手県宮古市の宮古工業高校の生徒さんを招待して震災の「体験談等を聞く」とことと、合わせて同高校への支援カンパに取り組むことを決めました。

高校同窓会の総会については、当日のスケジュールの都合で30分という制約された時間で開催しました。総会への出席者は、大学の同窓会(友電会)と総会開催の時間が重なったことにより、高校同窓会への





出席者が例年になく少ない状況でしたが、当初予定されていた議案は全て承認されました。

「平成23年度の事業報告・決算報告」「平成24

年度の事業計画・予算報告」および「役員の承認等」について承認を得て、新たな活動へスタートしました。

続いて、開催された「4月から就任された、藤田高校長と橘大学長の講演会」、今回のメイン行事である「宮古工業高校生徒さんによる被災報告会」から合同懇親会に移りました。



今回の合同懇親会のテーマが被災支援と言うこともあり、本来の高校同窓会会員の親睦については十分深めることができなかったように感じました。

(高校同窓会副会長 新宅 寛)

「クラブ同窓会 平成24年度通常総会」開催

大阪電気通信大学クラブ同窓会平成24年度通常総会は、多くのクラブ・団体のOB・OGおよび各クラブ・団体所属の準会員が出席する中、6月23日(土)午前10時45分より、JR大阪駅構内：ホテルグランヴィア大阪20F名庭で開催されました。

総会は、池田事務局長の司会により、先ず平岡クラブ同窓会会長が多くの出席者への謝意を述べるなどした後、同会長が議長に就任し開会を宣言しました。

議事は、平岡議長が第1号議案から第5号議案の事務局報告・説明の後、一括審議および承認を求めることを提案しました。議長提案に異議なく、直ちに池田事務局長より、第1号議案(平成23年度事業報告)・第2号議案(平成23年度収支決算報告)を議案通り報告・説明しました。

以上の議案について沖監査役代表が、平成23年度監査報告で「何れも会則に従い適正かつ真摯に執行されていることを認めます」と監査報告しました。

続いて、事務局から第3号議案(平成24年度事業計画案)

と第4号議案(平成24年度収支予算案)、第5号議案(平成23年度役員案)を報告・説明しました。

報告・説明の後、一括審議に入りましたが出席者からの質問等特段の発言はなく、平岡議長は第1号～第5号議案の承認を求めました。その結果、第1号～第5号議案は拍手とともに満場一致で事務局案が拍手をもって承認・可決されました。



カンパを募り宮古工業高校生を招待

東日本大震災の被災地・宮古市に寄り添い学生ボランティア隊を派遣するなど復興支援を行っている母校。宮古市から感謝の言葉が友電会にも多く寄せられていました。理事会は招請を計画、高校同窓会にも協力を呼びかけカンパを募り、岩手県立宮古工業高校生徒の招請を実現しました。

来阪するのは同高の「津波の語り部」として、津波の恐ろしさについて警鐘を鳴らし続ける津波模型班の生徒3名と引率の教員1名。6月23日来阪、同日宿泊、翌24日、阪神大震災被災地・神戸市を訪問、復興した神戸を見学しました。

寄付者は以下のとおり。(平成24年6月22日現在。順不同、敬称略)

- 【友電会】<三役> 会長・猿渡 洋(F02)、副会長・野村 康明(F01)、副会長・野田 哲治(F03)、
副会長・守上 芳士(E05)、事務局長・安 弘(F01)
- <理事> 田中 稲夫(F06)、藤本 明(I06)、柴垣 佳明(F28)、野田 鐘一(F07)、福田 武(E02)、
岡本 清孝(H11)、吉田 栄治(F02)、辻 佳彦(H13)、大平 富義(H08)、水谷 元也(E08)、
川口 明良(F04)、山崎 洋一郎(H10)、池本 善一(E02)、北森 弘樹(E04)
- <顧問> 中山 修(F06)、中西 義一(E04)
- <評議員> 奥村 義美(E06)、堀内 定夫(G05)、藤田 順彦(F04)、藤原 公彦(E04)、里内 登(F08)、
志村 哲樹(F07)、山口 文男(H07)、中野 正三(E05)、大野 一廣(F05)、段 安義彦(F06)、
上杉 靖男(E02)、山崎 敏之(F08)、尼丁 正寄(F08)、井野川 一(E10)、井平 佳秀(I07)、
大角 武紘(E01)、早野 秀樹(E28)、菅野 和夫(F03)、観野 福太郎(E04)

【高校同窓会】役員一同

「学園の将来を語る～心はひとつ～」

- 実学をベースに夢を形にできる教育システム構築
- 就職に強い「電通大」のブランド化を目指す

講演者



大阪電気通信大学
橘 邦英 学長

- 生年月日 1945年11月19日生
- 出身 兵庫県明石市
- 略歴
 - 1968年3月 京都大学工学部機械工学科卒業
 - 1973年3月 京都大学大学院工学研究科博士課程機械工学第二専攻 単位修得退学
 - 1974年7月 工学博士(京都大学)
 - 1973年4月 東京芝浦電気株式会社総合研究所入社
 - 1987年8月 京都大学大学院工学研究科電子物性工学専攻 教授
 - 1995年4月 京都大学教育研究評議員・工学研究科副研究科長兼任
 - 2006年4月 京都大学教育研究評議員・工学研究科副研究科長兼任
 - 2009年3月 同上 定年退職(京都大学名誉教授)
 - 2009年4月 愛媛大学理工学研究科電子情報工学専攻教授(プラズマ・光科学研究推進室長)
 - 2011年4月 大阪電気通信大学工学部電気電子工学科 教授
 - 2012年4月 大阪電気通信大学学長に就任(任期2012年4月1日～2016年3月31日の4年間)
- 専門分野 プラズマ科学、プラズマ応用技術、光応用技術
- 受賞歴 応用物理学会賞(論文賞)1995など



大阪電気通信大学高等学校
藤田智一 校長

- 生年月日 昭和21年10月25日生
- 経歴
 - 近畿大学商経学部卒業
 - 大阪電気通信大学学生部に16年間在籍、一貫して学生の就職指導、斡旋等の就職業務を担当。その後7年間は教務、入試、大学事務局での業務を担当。平成5年度から法人に異動し主として総務、人事、労務を担当。平成24年度から大阪電気通信大学高等学校校長に就任。
 - 昭和63年3月から法人評議員
 - 平成6年3月から法人理事
 - 趣味はゴルフ、季節ごとの食材を使った創作料理等

今年4月就任されたばかりの大阪電気通信大学の橘邦英学長と大阪電気通信大学高等学校の藤田智一校長による記念講演会が6月23日(土)、友電会通常総会の後、総会会場の「ホテルグランヴィア大阪・孔雀の間」で行われました。

「学園の将来を語る～心はひとつ～」をテーマに、法人評議員、観野福太郎氏(E04)の司会で、入学、教育、就職など学園を取り巻く環境を分析、高・大連携から同窓会の就職支援などについて約1時間にわたり熱っぽく語られました。



記念講演をされた橘新学長と藤田新校長。

【観野(司会)】 それでは、ただいまから記念講演会を開催させていただきます。本会の司会は、本学工学部4期の観野福太郎氏が進行役をさせていただきます。よろしくお願いします。

皆さん方もご存知のように、過去十数年、アジアの中では、アジアの中枢の国の中で日本は大変取り残されておりまして、経済も大変疲弊しているという状況はご存知だと思います。首都圏、中部圏、関西圏の中で大変経済基盤も疲弊しているのはご承知のとおりだと思います。教育界においても少子化で大変厳しい現状で、今後はますます厳しくなるということは否定できない状況であると思います。

この困難な課題山積の時代に、本年4月1日、大学では新学長に橘先生、高校では新校長の藤田先生がご就任いただきました記念すべき年でもございます。この状況下、課題も大変山積しております。まずは、ご就任に当たって課題と抱負を賜りたいと思います。

現状で発展した学園を踏襲できるか

【橘(新学長)】 本学では、寝屋川キャンパスのほかに四條畷キャンパスができて25年以上たちます。それから、駅



前学舎もできました。創設以来50年で随分発展をしてきましたが、この段階に至って何らかの改革をしていかないと、これからのグローバル競争に勝っていけないということで少し話をさせていただきます。

まず、50周年すなわち半世紀の歴史があります。その中で、5学部14学科という総合テクノロジーの大学としての拡大・発展の路線を歩んできました。これで随分本学が社会で認知もされてきたわけですが、その間に社会情勢が変わるということも当然あるわけです。特に近年は少子化です。18歳人口が120万人を切ろうとしている流れの中、さらにグローバル化の経済変動の流れの中で産業が低迷しています。こういうバックグラウンドがありますので、今までのこの拡大・発展路線はそのまま踏襲できず、どうするかという課題があります。

ハングリー精神脆弱化にともない競争力が低下

それに、社会情勢の変化は学生さんの気質にも変化を及ぼしておりまして、志願者の数も減っていますし、それに伴って学力が低下してきているということも否定はできません。入ってこられる学生さんの学ぶ力といいますか、就学力、それからさらに将来、学んだ力を生かして働いていくという生活力などが、なかなか昔の若い人みたいにハングリーな精神がありませんので、全体的に脆弱化しています。これは、やはり本学だけでなく日本中の傾向でして、今この辺が日本の世界における競争力を弱くしている根本原因だと私は思っています。

「変則有、不変則無」で、エーキューV作戦!!

そういう中で、文科省がキャリアデザインの教育、すなわち人生設計ですね、そういったものが必要であるということを出して、各大学でこれに取り組んでおります。我々の大学でも、自分の専門をベースとして、専門教育と一体化したキャリアデザインが必要だと思われま

す。そういう中で、次の50年のために今変える、変わることを、すなわち変える意識でやれば必ず変わると思っています。これは福田國彌理事長がよく使われる「変則有、不変則無」。『臨済録』からとられたのですが、「変えようと思えば変わる」と同じことです。それを「OECU-V(エーキューヴィ)作戦」と名付けました。この「O」と「E」を背中合わせにしたのはドイツ語では「Ø」と発音しますから、「永久」ということにひっかけています。この頭文字にそれぞれ意味を持たせていて、「O」はオリジナルあるいはアウトスタンディング、「E」は卓越したエデュケー

ション教育、「C」はキャリアデザイン、「U」はユーティリティーシステムを意味していますが、そのようなシステムを構築してV字回復をしたいという願いで、「OECU-V(エーキューヴィ)作戦」という旗をつくり、この推進に取り組んでいます。

新たな教育システムで学部・学科を支える

まず学生さんが大学に入ってこられますと学部・学科で世話をしていきますが、その周辺で教職一体になった4つの部(入試部、教務部、学生部、就職部)を構築して、これらが連携しながら学部・学科の教育を支援するシステムになっています。また、共通教育としての基礎教育、それから総合教育、語学教育、そういったものは各センターでサポートします。それから、実験センターとかメディアコンピュータセンター、図書館、こういった組織も支援部隊として学部・学科の教育を支えていくという全体的な仕組みをきっちと構築しようと考えています。

本学では、実は学生部と教務部がある時期から去年まで一体でやっていたんですが、やはり学生部の業務も増えていますので、これを2つにきっちと分けて、入試部と就職部を加えた4つの部が連携して、学生の就学を支援するという形を今つくろうとしております。

実学をベースに人間力を培い、夢を形にできる人をつくる

先ほど申し上げましたが、入ってくる学生さんの質もかなりバラバラになってきていますので、入学前教育も必要になっています。それから、「出口」でなかなか就職がうまくいかないというケースもありますし、就職された後にすぐ辞めてこられる方もおられますから、アフターケアも含めて体制を構築しないといけないと考えております。

こういう支援システムをいろいろ考えておりますが、「実



学をベースに人間力を培い、夢を形にできる人をつくる」を本学のスローガンとしています。これを実現すべく教育システムを構築してきています。まず導入教育、それから語学とか社会科学、コミュニケーション、キャリアデザインをベースにしながら専門知識と技能の教育、こういったものを有機的につないで人格教育を調和させていこうとしています。その中で技能、特に実学という使える学問をきちっと身につけていただく教育を実質化しようとする教育体制を構築しつつあります。

実学教育で 「音で響くような人をつくりたい」

それで、その実学とは何だということをよく聞かれますので、私は3つのカテゴリーで答えております。まず、手が動かせる。これは、技能をきちっと持って、与えられた課題に手を出していけるということが第1。

次に、自分が考えたことが具体的に図や表で示せる、ディスプレイの上に絵が描けるということが1つの実学の証だと思しますので、これを第2に挙げております。

それから、当然ながらコミュニケーションをする力、これは自分の考えを伝えるだけでなく、人の考えも聞けるといった力ですが、これらの3つの力を実学の力として、それを本学の教育に盛り込んでいきたいと考えています。

その中で、特に「絵が描ける」というところを強調しております。これは従来の論理的な学問の教育だけではなく、ビジュアルに絵を描くとかイメージを描く、そういった右脳の能力をさらに培って、それを左脳と合わせてうまく活用することによって、能力が発揮できるより高い学生さんを育てていきたいと考えています。

こういう実学教育を実質化して3つの能力を身につけていただきますと、例えばラップですと、最初はただの空気を吹き込みますけど、最後は音になって出てきます。すなわち、「音となって響くような人をつくりたい」ということでやっております。

【観野(司会)】 橘学長先生、どうもありがとうございます。続きまして、藤田校長先生、よろしくお願いします。

教育環境、先生方が働きやすい環境を整備したい



【藤田(新校長)】 私が校長を引き受けた経緯なども少し交えてお話を進めていきたいと思います。

私は、教壇に立った経験ありませんし、教員の免許も持っていません。果たして校長としてどういう役割を果たしたらいいのかということを実際に考えました。そんな中、教育のほうは先生がプロでございますので、全面的にそちらにお任せし、私のほうは生徒の教育環境、先生方が働きやすい職場環境をどう整備するかということを基本に考えて、今日を迎えています。

今年の3月、職員会議で私の基本方針なりを発表する機会がありました。これはレジュメにも書いていますが、本校を取り巻く環境が果たしてどういうふうな状況になっているかを話しました。明らかに15歳人口は減少します。これは大学も一緒ですが、少子化の影響で就学適齢人口が減ります。大学の場合は比較的全国ネットから獲得できるわけですが、高等学校の場合は、大阪府下が大半です。これが平成28年以降は急減を迎えるということで、今がちょうど踊り場的な状況で、微増微減で、7万5千人ぐらいが大阪府下の公立中学在籍の3年生だと認識しています。

私学ですので、当然生徒を確保するという「入り口」の部分と、卒業後の進路という「出口」の部分は極めて重要でして、この部分について私はある程度、今までの経験の中で

本学の現状と課題

- ・ 開学50周年(半世紀の歴史)
- ・ 総合テクノロジーの大学
 - 5学部14学科へと拡大発展の路線
- ・ 社会情勢の変化
 - 少子化(18歳人口が120万人へと減少)
 - 日本経済・産業の低迷(グローバル化の荒波)
- ・ 学生の質の変化
 - 志願者の減少、偏差値・基礎学力の低落
 - 就学力、生活力の脆弱化
 - キャリアデザイン教育の必要(専門教育と一体化)

キャリア支援システム

入口から出口までの連携したキャリア形成支援
学生一人ひとりの特性・個性に対応したきめ細かい支援

- ・ 就職部(キャリアセンター)窓口業務の強化
- ・ 学修履歴・ポートフォリオを活用した個別対応の充実
- ・ インターンシップ制度の活用
- ・ プレゼミの活用
- ・ 卒業研究の充実(技術を手にも、考える力を頭にも)

入口から出口、さらに卒業後までを含んだ追跡調査法の確立とその活用法の検討

For our students in the next 50 years

変える、変わる (変即有、不変即無 龍溪評)

エーキュー ヴィ
OECU-V作戦

- ・ Original (Outstanding)
 - ・ Education and
 - ・ Career-design
 - ・ Utility systems
- for Victorious Recovery

オリジナルで卓越した実効的な教育・学習および
キャリアデザイン・システムを開発・活用して、
大阪電気通信大学を活性化する勝利作戦



やっていけないのではないかと考えています。こういうふうなことで幾つか心の葛藤がありましたが、何とか校長としての役割を果たし、本校の発展につなげていきたいと考えたわけです。

毎朝正門に立ち 生徒を迎え「あいさつ運動」

それ以外に高校の現場を法人の立場ではいろいろかわっていましたが、実際、1日高等学校に居て生徒の動向などを見る機会というのはありませんでした。まず私が心がけましたのは、本校の生徒がどういふ生徒であるか、これを知ることが1つであろうと思ひまして、限られた時間ではありますが、朝7時45分から45分間、1回の出張を除いては毎日校門の前に立っています。

生徒の動きは、最初は「何やこのおっさん」というふうな感じで、あいさつを返してくる生徒が必ずしも全員ではなかったわけですが、1週間、2週間経過するうちに着実に生徒の対応が変わってきました。今はほとんどの生徒が「おはようございます」という声を返してくれるようになりました。

本校は、それ以外に先生方も14、5名、毎朝正門などで声かけをしています。6月の中旬だったでしょうか、あるクラブの生徒達15名から20名が、早朝一緒に立って来て、登校する多くの生徒達を迎えています。顧問の先生に言われたのかというそうではなくて、自主的に立ったということでした。自分達が実際、登校してくる生徒らに声をかけて、どの程度あいさつを返してくれるか、肌で感じたいという部分があったのだと思います。

朝、皆さんもそうでしょうけど、「おはようございます」と言って、知らん顔をされると大変気分が悪いわけですね。ですから、そういう声をかけることによって相手も声をかけてくれるということから朝が始まる。こういうところを恐らく20名の生徒さんは感じてくれたんじゃないかと考えています。

学力向上も大切だが 人間としてのマナーも培いたい

これは私の勝手な想像ですが、これらの行動は外部の方々がいろいろ本校にお越しになった際、「本校の生徒さんはよくあいさつされますね」と評されています。学力を上げるといふのは勿論重要な部分であるということは十分認識しておりますが、やはり人間としてのマナーといひますか、社会生活を送る上で大変重要なことといひます、まずあいさつだと思っておりますので、その辺をしっかり1年かけて、「なるほど大きく変わった」といふ方向に持っていきたいという気持ちは強く持っております。

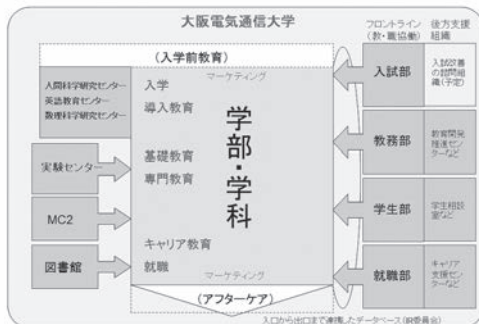
就任して3ヶ月、先生方に対する認識に 大きな違いが

一方、先生方の動向ですが、朝7時ぐらいいはもう職場に來られております。保護者からかかってくる電話の対応、「きょう休みます」とか「調子が悪い」といふ連絡にも十分対応されています。想像していた以上に、先生方は非常に熱心に日々頑張つてやっております。私が現職に就いて約3ヵ月、高等学校の中に入りましていろいろ見ておると、その辺は今まで法人の立場で見ていた先生方の対応と、実際現場で苦労されている先生方といふのは明らかに認識の違いがあったなと思っております。

そういうことで、15歳から18歳はなかなか多感な年代でさまざまな問題があります。恐らく先生方も、生徒の学力は勿論のこと、ケガをしないだろうとかかなど、いろいろなことを心配されながら一生懸命、日々取り組んでおられます。既に私の方針を述べた後、先の中間試験の午後、あいた時間を今年入学した生徒の出身校へ全員が手分けして周り、近況報告と今後の依頼、また秋にはいよいよ入試が本格化しますので、その段階ではさらに拡大して中学校等を回っていただくことになっています。

また、補習授業も全体で取り組んでいただいております。

学生を中心にした学修支援組織



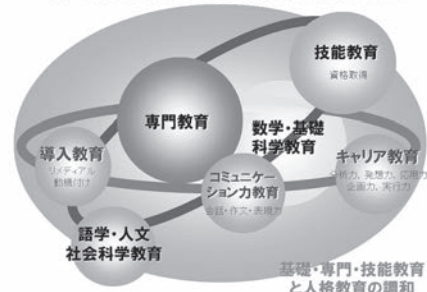
学習支援システム

入口から出口までの連携した学習支援
学生一人ひとりの顔が見えるきめ細かい支援
課外活動(自由工房、資格取得講座などを活用した支援)

- ・入学前教育
- ・個別学習指導(学内塾など)
- ・デザイン教育の実質化(単位付与も考慮)
- ・エクステンション講座の整備(資格取得の奨励)

学生一人ひとりの学習成果(入学後の付加価値(ゲイン))
の定量評価法とそのフィードバックシステムの確立

実学をベースに人間力を培い 「夢をかたちにできる人」を育てる



これは全員の先生がかかるわけではないですが、一応主要教科である数学と英語、理科、国語、この4教科については放課後の7時限、8時限目を使って——これは希望者だけでやってありますが、そういう方向でも確実に動いております。

卒業して『電通高校の生徒でよかった』 と思える学校にしたい

クラブ活動も活発に活動しています。非常に狭いグラウンドですが、あのグラウンドで十分やれというのは非常にかわいそうな部分があります。大学の支援をいただいて四條畷学舎のグラウンドを土曜日、日曜日に借り、クラブによってはさまざまな形で活動に取り組んでいます。

そういうことで、私は本校の生徒が1人でも多く国公立などの上位校への進学を願っていますが、しかし、一番のポイントは、卒業して『電通高校の生徒でよかった』と思える学校にしていきたいと思っています。当然、進学実績も目標は皆さんに掲示してありますので、それはそれなりに一生懸命努力していただいていると認識しています。



優秀な生徒を1人でも多く大学におくと同時に、「電通高生でよかったといわれる高校にしたい」と意気込みを語る藤田校長。

【観野(司会)】 藤田校長先生、職務精励、本当に感謝申し上げます。続きまして、橘学長先生のほうから、もう少し話をしたいという点がございましたら追加してお願いいたします。

学生の働く意識が希薄

【橘(新学長)】 少し続きを話させていただきます。

ご承知のとおり、とにかく今は日本全体を通して、大学生の就職というのが大変なときです。去年に比べ、こ少しは少し回復気味ではあるのですが、やはり日本経済のこういう状況の中で就職率を上げるというのはなかなか難しいところがあります。

それにもまして、学生さんの働くということに対する認識というか、自覚といいますか、これがなかなかはっきりしていない。今まで本当に過保護で育ってきていて、社会へ出るという準備ができないまま就職試験へ行く。ですから、面接のときに自分が何者であるか、まず分析できない。そこへ行くまでにも、エントリーシートを書くときに自分というものがうまく書けない。行っても自分が何をしたいかも説明できない。そういう状況で面接に行って落ちてきます。

こういう状況ですので、まず私は、自分というのを分析する方法を教えたいと思っています。例えば皆さんでもそうですが、白い紙を1枚与えられて、自分というのを分析して書きなさいと言われてもなかなか書けないですよ、普通であれば。それに対してどうしてあげればいいのかということで、いろんなことを試みています。

アンテナショップを開き 学生の意識を探る

それは一旦さておき、学習支援全体の話ですが、私どもは「ゲット・カフェ」というのを開いて、学生さんにいろんな支援をしているというアンテナショップを開いています。

“実学”の実質化

実学の3つの能力

- ・ 手が動かせる
与えられた／考えた課題に対して手が出せる
- ・ 絵が描ける
自分の考えが具象化できる(図表化できる)
- ・ コミュニケーションができる
自分の考えを伝えられる⇒人の考えが理解できる

右脳の活用

(これまでの教育・評価は左脳が主対象で、右脳の能力は未開拓)
⇒対象・内容をビジュアル化した教育方法
⇒シンキング・コミュニケーションツールの習得

右脳を活用した実学教育



マナーで輝くO.E.C.U. あいさつ運動





その中で、私自身も「学長理科教室」を開いています。これは電波のテーマの例ですが、地デジの話をして「地デジに使われている電波の波長はどれくらいでしょうか」という質問を学生さんに投げかけて、うまく答えが返ってくるかどうかを見たり、他の例では「凍った缶コーヒーと凍っていないものをスロープの上で転がしたらどっちが速いですか」などの問題を投げかけて、その理由について議論を吹っかけるというようなことをやっています。

そういうゲット・カフェでは工作教室をやったださる実験センターの方々、それから「自由工房」のロボットとかを展示してくださるの方々、それから就職相談、学生相談をしてくださる職員の方々が机を並べています。これは本格的な学生支援ではなくて、本当に出店、すなわちアンテナショップで、どこへ行けばさらに深いサービスが受けられますかということを案内している総合受付でもあるわけです。

自らの経験に基づき、白紙に図で表現を促す

話が横道にそれましたが、物を考えるときに、白紙の上に何か書けと言っても書けませんから、どうしたら考えてまとめられるか、そういうツールを与えるわけです。それから、コミュニケーションにしてもまず表現法ですが、特に図を使って表現する、こういった方法を教えていくことで、ただの人がただ以上にできるようになります。大工さんでもゴルフでもそうですが、いい道具を持てば多少はうまくなりますから、まず道具を身につけてもらおうということからやろうとしています。

これは私自身の経験に基づいてのことです。私自身、大学卒業後に会社へ入りました。昔は会社も余裕がありましたから、新人の導入教育というのは電気会社ですと3カ月ぐらいかけてやってくれました。電話のかけ方、しゃべり方、書類のまとめ方、本当にいろいろやりました。その中で発想法や表現法についてもいろいろ教えてくれましたが、

今はそんなことをやれる会社は多分ないでしょう。だから、大学でこういうことをやっておくことは必要だと私は思っています。

図式法はトータルとしての人間力を養う

本学の学生諸君は多分、入学試験で普通のセンター試験とかをすれば、左脳の能力で恐らく負けてしまうかもしれないけど、右脳を鍛えてやることによって全体としての人間力では勝てるかもしれないと、そういうことを今一生懸命言っているわけです。

そういうツールを与えて、○、△、□というパターンの中に文字とか矢印を入れていって、これを組み合わせたらそれなりの内容を説明する絵になり、こういうツールで自分というのをきちっと分析して、その図を見ながら紙に書いていったらいいので、そういうことをやってみなさいということをお話しています。

本学の現状をもう1回分析させていただきますと、ここに示したのも図式法の一つです。こういう図をかくということを自分からも心がけて、職員あるいは教員に対しても、できるだけ絵にして出すということを勧めていこうとしています。これは本学の教育をSWOT分析という方法で図にしたものです。ストレングスポイントー強み、それからウィークネスー弱み、それからオポチュニティーー機会、スレットー脅威、この4つを内部要因と外部要因に分けてマトリックスで描くという方法です。これも1つの図式法ですね。こういうことを自分も心がけております。

本学の強みは先進的な学科と教員、それに同窓会

その中で、本学の強みは、今まで発展してきた中でたくさん先進的な学科をつくっていると、優秀な教員がいるとかいろいろあります。さらに、同窓会組織が非常に強いということもあります。



就学支援の総合受付
(アンテナショップ)

ゲットカフェ
・Get Together
・Get Information
・Get Knowledge

・学長理科教室

本学における教育のSWOT分析

	プラス	マイナス
内部要因	S (Strength) 強み ・先進的な学科の創設 ・幅広い人材教育の機会提供 ・優秀な教員(若手)が確保できている ・強大な同窓会組織(友電会)を有している	W (Weakness) 弱み ・キャンパスの地理的分散 ・入学者の基礎学力低下 ・学力の2極化 ・教員の高年齢層化 ・学生定員の充足率(未充足学科)
外部要因	O (Opportunity) 機会 ・先進的な学科による差別化(特異性)の確保 ・総合的なテクノロジーへの展開 ・立地条件がよい ・民間会社による支援が得られている(産学連携講座等)	T (Threat) 脅威 ・他大学(大手)による模倣・追随 ・18歳人口の減少 ・偏差値の低下 ・志願者(倍率)の低減 ・指定校からの評価の下落

教育

シンキング ツール

- ブレイン・ストーミング
- KJ法 など

コミュニケーション ツール

- 表現法(図式法など)
- 会話法

これは、週刊朝日の大学ランキングの中でもちゃんと上位に入っております。同窓会の会員数が多いということで、136位に入っています。

こういうことをきちっと分析することで戦略を立てたいというのが、私がこれから4年間の任期の間でやっていきたいことです。補足として説明させていただきました。



母校の強みは先進的学科・優秀な教職員・同窓会組織。「戦略を立てて任期4年間でやっていきたい」と語る橘学長。

【観野(司会)】 橘学長先生、視覚を伴った将来ビジョン、本当にありがとうございました。

今現在、学長先生、校長先生に同席いただいております。30年、20年、10年と、こう10年単位でその過去を振り返ると、大学、高校の高・大連携、これは大分改革されてきたと私は感じていますが、これからはさらに強化しなければいけない大きな課題ではないかと思います。せっかく学長先生、校長先生がおられますので、高・大連携の強化策について抱負をお願いします。

相互の思いが伝わる 入学前教育にしたい

【橘(新学長)】 確かに、今さっきも問題として入学前教育の必要性を挙げましたが、今私どもの入試も本当に多様化しておりまして、AO入試やら指定校入試やら何やら、一般入試に至るまで何種類もやっています。ですから、本当にいろんな違う能力を持った学生さんが入ってこられます。

スペクトルは非常に広い。例えば、基礎学力を比べてみると本当に万別です。普通の試験ではだめだけど、別の能力を持っているという人はそういうジャンルで多分入ってきておられると思いますが、いわゆるスタートポイントで基礎科目を教え始めるときには、なかなか大変だというのは実感です。

そのために、その入学前教育というのをしたり、高校へ出前授業に行ったりとか、いろいろ高校との連携を強めております。今はほとんど全国の大学でこれをやっています。ただ、そのやり方においてまだ十分に効果を上げるようなまい方法が開発されてはいないのが現状と私は思います。

今のやり方は、予備校とか進学の業者に投げて、そこから教材を送ってもらって問題の答えを採点してもらい、その結果の集計だけが返ってくるというものです。これではなかなか本当の意味での高・大連携ができない。つまり、どういう人が欲しい、入ってくるまでにどういう能力を身につけておいて欲しいという、そういう相互の思いがなかなか伝わらない。そういう意味で、こら辺の課題をどうするかということを、今これからやっていかないとはいけません。

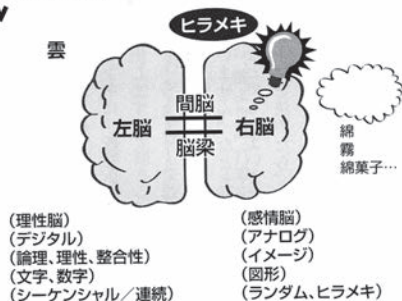
その入学前の教育では、双方向の教育といいますか、大学から投げるだけの教育ではなくて、高校とうまく連携して大学ではこういう人材を育てたいということを明示し、その素養のある人をきちっと送っていただくような連携をしていかないと、大学での教育が功を奏しないと思いますので、その辺の連携をうまく高校とやっていきたいと思えます。

【観野(司会)】 どうもありがとうございます。藤田校長先生のほうからもお願いします。

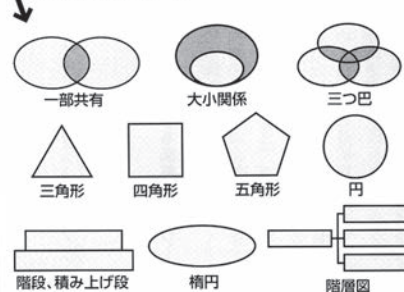
大学は、進級、卒業、就職の保障を

【藤田(新校長)】 同一法人ですので、今まで大阪電気通信

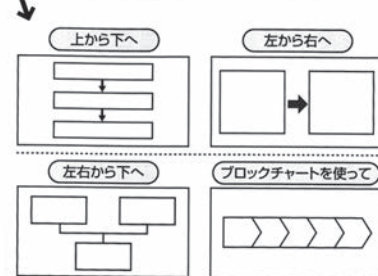
左脳と右脳



身近な図解パターン



レイアウトの基本パターン① プロセス型





大学という冠をつけて進んできた成果というのは高等学校の発展に大きく寄与していると認識しております。

最近は、ご承知のとおり、4割以上の大学が定員割れを起す状況下で、大学を選ばなければ数字的には全入時代に来ていることは間違いないと思います。その中であって、私は基本方針の中で教職員の方にも述べましたが、大電通大にはやはり150名は何とか送らないといけな。ただ送って合格させようということではなくて、今までは何とか採っていただきたいというスタンスから、電通高校は他校に負けない実力を持って入学するという方向にしていきたい。

そのかわり、大電通大に入った以上は、進級、それから卒業、就職までしっかり大学が面倒を見る。ここまで本校の生徒を底上げし、大学に送ることによって、大学はこれだけの保障をしてくれる。そのことがなければ、生徒がどこの大学を選ぶかというのは、これは本人に選択権があるわけですし、大学に教員が入学を勧める以上は、大学としてもその辺のところをしっかりと高等学校に提示していただく。当然、高等学校もそれに見合った学力を有した人材を育てて送るということになると考えています。そのことは、事あるごとに大学さんのほうにも申し上げているところです。

理工系学部に進学の強い 本校のブランド

あと1つは、基本方針を遂行する中で本校が生き残るためには、やはり一定の特徴を出していけないといけな。その基礎がある程度できていると思っておりますので、それをさらにブランド化していくということです。まず1つは進学と就職に強いとする本校のブランド。実際、公立あたりの工業科の話を聞きますと、大体8割が就職のようです。しかし、本校の電子工業科は85%から90%近くが進学しており、全体としてもこの3月の卒業生の動向を見ますと、4年制大学への進学が81%、専門学校が12%、それからあと就職ですが、わずか2%か3%ということでした。未定者も極めて少ない状況です。

そういう状況になっているということで、この進学と就職に強いとする本校のブランド化をさらに進めていく。2つ目は、大体が理工系学部割合としては多く進んでいます。日本は、ご承知のとおりものづくりの国ですので、工学部教育というのは極めて重要であろうと今でも思っております。そういうことで、理工系学部に進学の強い本校のブランド。

卒業生・生徒・保護者が満足する 「電通高」に

それから、3点目が、生徒と保護者の満足度の高いとする本校のブランド。これは、学校がいろんな形で募集のPRをしておりますが、最終的に勝つのは自分の卒業した母校に、親となって自分の子に、あるいは親戚の子に、それを勧めていただくということが一定数の志願者を確保する方向だと思っております。

そういう意味では生徒、保護者が「本校を卒業してよかった」というところで、何も学力だけを高くしてもらったということだけではなくて、いろんな意味で『本校の卒業生でよかった』と思ってもらうことが大事ではないかと思っています。この辺のブランド化を図っていききたいと思っています。

4点目は、進路決定率と退学率です。進路決定率は、卒業する段階では、一定の進路を確保できているという比率ですが、これを極力100%に近づけるということと、退学率が5%前後ですが、これを限りなくゼロというのは難しいですが、当面の目標は2%台にして欲しいと要請しています。本校は進路未定率が極めて低い。

地元から評価の高い生活指導、 さらに高める

最後の1つは、生活指導面。人間、生きていく上でいろんなこと、いろんな場面に遭遇するわけですけど、そういうことに対しても悪いこと、良いこと、この辺のケジメがしっかりつけられるようにする。その生活指導をしっかりとすることで、本校の教育目標の一つである『人間の生き方を教える教育をしよう』に結びつけていけたら、と願っています。

これは手前みそになりますが、私が就任して中学回りをしておりましたら、ある地元の中学校の教頭先生が、「電通高校さんは非常に生活指導面をしっかりとやっておられますね。私どもの中学ではとてもここまでできません」と。朝の登校状況を見られたり、帰るときの生活指導の先生方が生徒を見送っているところを見られて言われたんだと思いますが、地元の評価が上がるということは極めて大事なことだと思います。評価を下げるのは簡単ですが、上げるのは非常に難しい。やはりそれなりの年数をかけないと、なかなかそうようにはならないと思っています。

その辺はしっかりとやって、あそこの高等学校へ入ると生活指導面でもしっかりしていただける。これはかなり厳しいことで、私も処分の言い渡しなんかをしますけど、それが必ずしも良いか悪いかというのはわかりませんが、やはり物事にはきっちりけじめをつけるというのが大事

なことだと思います。特に高校生であれば、保護者がおられるから何をしても良いということでは決していないと思います。その辺はしっかりやっていこうということで、有能な生徒を大電通大へ1名でも多く送れたらと思っています。

【観野(司会)】 藤田校長先生、どうもありがとうございました。

学長先生も校長先生も一般企業というボードメンバー、法人の理事会のメンバーですので、月2回、学長、校長さんのさらなる連携強化をお願いいたします。一般的に大学のほうと、附属高校ではないですが、学園は一体です。大学、高校がともに繁栄するようによろしく願いいたします。

本同窓会は、大学、高校の合同同窓会で、久しぶりの記念すべき総会だと私は思います。この厳しい環境下、学校法人大阪電気通信大学がまだまだ71年目といえども、100年越、130越を超えた私学の伝統校に伍して勝ち抜き、生き抜くためには、やはり私は生徒さん、学生さん、教職員、教職員OB、もちろん卒業生、全員が一丸とならないと勝ち抜くことはできない、生き抜くことはできない、私はそう確信している1人です。



司会を務めた観野氏。手際よくテーマを絞った進行に会場から拍手が送られていました。

ここにあるSWOT分析の中の左上、プラスのほうに「強大な同窓会組織、友電会を有している」と書いていただいているのですが、こども数より質、数も大事ですが質、これも問われると思います。こういう場でございますので、学長先生、

校長先生のほうから率直に、同窓会はもっとこういうことを協力する必要があるという要請がありましたら、遠慮なく語っていただきたいと思います。

同窓会は学園の「資産」、キャリア教育やインターシップで社会経験を

【橋(新学長)】 実は昨日、この友電会の中で起業家の方々、実際、会社をつくっておられる方々の集まりというのをさせていただきまして、20人ぐらいの社長さんにお集まりいただきました。全数で言えば、友電会の中のメンバーの中で多分400名ぐらいの方が現職として社長をしておられ

ると思います。これが多いか少ないかというのはともかく、例えば大工大はその何倍かおられるらしいのですが、うちの規模としては本当に頑張っておられるなという数字だと私は思います。それだけの方がおられるこの資産を、もちろん社長さんだけでなく、いろんな企業で頑張っておられる方々がたくさんおられますので、こういう方々の力をぜひお借りしたいと私は切に願っております。

単刀直入に言えば、うちの学生さんを採用して下さったら、これは一番ありがたいことですが、そうストレートなお願いで事が解決するとは思いません。1つの方法は自分が歩んでこられた道を若い人に紹介していただくこと、キャリア教育の中で自分の体験を語っていただくことです。それから、働くというのはどういうことかということ、例えばインターンシップなんかで会社へ呼んでいただいて、面倒を見ながら教えていただくとか、本学の先生方と共同研究をしていただいて、その中で学生も交えて一緒にやっていくとか、いろんなスキームがあると思うので、ぜひそういう方法について今後いろいろお話させていただいて、同窓会との連携を密にしていくことが本学を強くしていく1つの方策であろうと思っています。

具体的な方法につきましては、これからいろいろ本学から提案したり、あるいは逆に友電会から提案していただいたりして、それを検討しながらできるだけいろんなことを試みて、いい方法を探っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

【観野(司会)】 どうもありがとうございました。続きまして、藤田校長先生。

卒業生の活躍が母校発展のバロメータ

【藤田(新校長)】 私は、以前からも申し上げていますが、卒業生が活躍するということは、イコール母校の発展につながると思っています。従いまして、それぞれの分野で卒業生に大いに活躍していただくことがまず1つ。あと1つは、友電会が約4万数千人、それから高校卒業団体が2万6千人ぐらいおられると思いますが、それぞれ毎年卒業生が出ていくわけですので、お知り合いの方、あるいはご子息、お孫さんも含めて「電通高校へ行ったらこういうことがあるよ」と、私学へ行くのでしたら「電通高校へ行ったらどうや」という声かけをしていただくと大変ありがたいと思っています。これは、色々な広告とかを出すよりはるかに効果があるだろうと思っています。

また、そういう高校にしていくなために本校教職員も一生懸命頑張っていたいただいていますし、また生徒達も本校の学



習目標というものに対して熱心に取り組んでいますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

【観野(司会)】 藤田校長先生、どうもありがとうございます。ました。

最後の最後に、橘学長先生に、本講演会のクロージングをひとつお願いして当会のお開きにしたいと思います。学長先生、よろしくお願いします。

実学で夢を着実に実現できるように能力を開拓していく

【橘(新学長)】 最後に大役をいただきありがとうございました。本日は本当にたくさんの方々にお集まりいただきました。その中で私の思いの一端はお伝えしましたが、他にもいろいろ考えております。ただ、やっていく上でいろんな方のお力をかりないと実現できない、学内のメンバーはもちろんですけど、同窓会としてご支援いただく、あるいは社会からご支援いただく、こういうことも必要だと思います。

何よりも我々にとって、今までの大学の活動で反省しなければいけないのは、広報というのを本当にうまくやってきていなかったというのは事実です。いろんなところで広報活動をやっていますが、システムチックに、戦略的にやってない。伝えたいことをすべてうまく伝えているだろうかと言われると、うまくいっていない部分もたくさんあると思っています。

マッチングで、夢を着実に実現できるように能力を開拓していく

そういう意味で、本当に大学で若い人を預かって育てて社会へ出していく。そこで一番大事なものは双方のマッチングですね。この図には「マーケティング」と書いていますが、本学へ入ってきて何が勉強したいかということとをうまくマッチングしていく。送り出すときにも社会でちゃんと働けるようにマッチングをとっていく、そういうことが必要で、したいことに対してきちっと夢を描いて入ってこられる人に、その夢を着実に実現できるように能力を開拓していく場を与える、それを支援していくのが大学教育と思っています。

ところで、私は実は4つの大学で教鞭をとりました。超有名校からいろいろなレベルを経験しましたが、

すべて同じ問題として離学者のことがあります。離学者は大体どこでも5%程度はあります。これはなぜかというと、マッチングがとれていないからです。超有名校でも同じです。偏差値がこの点だったらおまえはそこに行けるからと、くすぐられて、1点でも高い偏差値のところへ入る。ただ、その学科で何をするかよく知らないで入ってきます。入ってみたら、そこは自分が希望した学科でなかったということに気がついた。そういう理由で離学していく。それがやっぱり少なからずあります。

そういうことは本学でももちろんあります。ですから、やはりちゃんとしたマッチングをして、動機をきちっと持った人に入ってきていただく。そういう方に入ってきていただく後の教育も随分しやすい。そうすると、送り出すときもきちっと、この人にはこれだけの付加価値をつけておりますから、どうぞ採ってくださいと言えるようになります。そういう流れを上手につくっていかないといけない。そのためには、さっき高・大連携の話をされましたけど、ここをぜひ進路指導の先生方とよく話して、本当に本学が何をやっているか、本学でどういうことができるか、14の学科でどういうことができるのか、これをきちっと宣伝して、それに適した方を送り込んでいただき、我々もそのような人材を入学させていく。そういうことで相互に発展をしていきたいと思っています。どうぞ皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げて、最後の言葉にしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。(拍手)

【司会(観野)】 本日はどうもありがとうございました。もう一度、感謝の拍手をお願いしたいと思います。(了)



記念講演会の会場は立見が出るほどの盛会。中でも電通高校生らは目をかがやかせて聞き入っていました。



合同懇親会

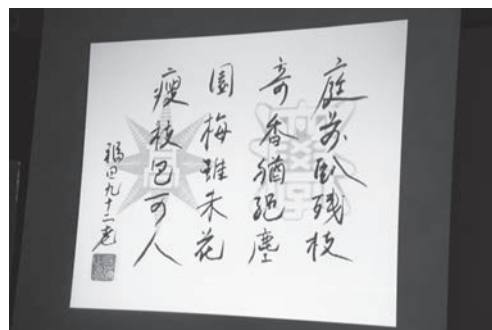
- ★支援の和船贈った宮古市からビデオレター
- ★友電会会員カンパで招待の宮古工業高校生徒ら交流
- ★福田國彌理事長には感謝の海産物
- ★「心はひとつ」テーマに4団体共催の懇親会

4団体共催(緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会)の合同懇親会は、大阪ステーションシティ、ホテルグランヴィア大阪・名庭の間で開催、250人を超える参加者を集め盛大に開かれました。

被災地・宮古市に寄り添い、支援活動が続ける母校にお礼を述べたいと、岩手県立宮古工業高校の生徒らが駆けつけ、宮古漁協から託された海産物を福田國彌理事長に手渡していました。

また、宮古漁協 大井誠治組合長、宮古工高 藤原 斉校長、鉾ヶ崎小学校児童からビデオレターが届けられ会場で放映されました。

学史編さん室(中西義一室長)は、記念講演会、懇親会、ビデオレターの模様を収録した記念DVDの製作をすることにしています。



司会 友電会理事 藤本 明 氏 (106)

「思い出に残る懇親会にしたい」と語り、軽妙な語りで進行了しました。

開会に先立ち黙祷を捧げました

昨年発生しました東日本大震災で犠牲となられました御霊様、母校・学園関係者・同窓生の故人となられました御霊様に黙祷。



東日本大震災の犠牲者に黙祷する参加者

開会宣言

総会実行委員長 新宅 寛 高校同窓会副会長 緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会の共催によります合同懇親会を開催します。



主催者を代表して森 強 高校同窓会会長が挨拶をしました

(緑樹会 石桁正士会長、高校同窓会 森 強会長、クラブ同窓会 平岡 臨会長、友電会 猿渡 洋会長がステージに揃いました)

高等学校同窓会会長の森 強でございます。一言ご挨拶をさせていただきます。



本日、合同の懇親会開催に当たり、ご講演を賜りました藤田高等学校長様、橘大学学長様、ありがとうございました。

また、遠方からご出席をいただきました「宮古工業高校の生徒・先生の皆様」ありがとうございました。震災から1年数か月が過ぎたとは言え、まだまだ学校生活や家庭などにおいて正常な状況とは言えない中、私どもの呼びかけ

に快く応じていただきましたこと、改めて感謝を申し上げます。本日と明日の2日間短い時間ではございますが、楽しんでいただけたら幸いです。

そして、母校高等学校から出席していただきました先生方、福田理事長先生を始め、法人本部の皆様、大学の先生方、本日のご出席まことにありがとうございます。高いところからではございますが、感謝を申し上げます。

さて、私たち高校同窓会は、例年5月第3土曜日に毎年総会・懇親会を開催させていただいておりましたが、今年は、友電会様からの呼びかけで、東北の震災被害に対して、法人・大学が支援活動を展開されている、これを同窓会としても何らかの形で支援できないものか、高校と大学の同窓会組織が合同で何か取り組みましようとの提案からスタートし本日を迎えました。本日を機会に母校の発展と同窓会の発展に向けて役員一同さらに頑張ります。ありがとうございました。

学園歌斉唱

「われら風〜」。応援団第18代副団長、中川 卓氏(H17)のリーダーで吹奏楽団が演奏。声高らかに学園歌を斉唱しました。

学園の隆盛を祈念しエールを送ったあと、「ファイト〜、ファイト〜、宮工」と宮古工高に激励のエールを送っていました。



宮古工高 山野目 弘 教諭(校長代理)が復興支援に謝意

東北大震災に対するご支援に感謝いたします。発生は入試が終わった2日目の3月11日でした。津波で三陸海岸は壊滅的被害を受けました。堤防を乗り越えた1mの津波が

本校を襲い、機械実習等や校舎は水浸しとなり使用できませんでした。復興の最中、大阪電気通信大学様から実習機械など支援物資が届けられ、「頑張らなければ」と励みになりました。ご支援に感謝しますと共に、これからも頑張りますので宜しくお願いします。



■■■ 来賓あいさつ 竹内 譲 衆議院議員が激励



大学から宮古市への支援活動状況を聞いています。私も毎月、東北へ行っておりますが、言葉に絶する被害で、宮古工高の皆さんのご苦労はいかばかりかとお察しします。皆様が希望を持てるように、国を挙げて応援していく決意です。希望を持って頑張ってください。

■■■ 宮古漁協 大井誠治組合長、宮古工高 藤原 斉校長、 鉾ヶ崎小学校児童からビデオレター

宮古市在住の同窓で元宮古工高教諭 菅野和夫氏(F03)が、母校の支援活動に謝意を述べられていた方々の映像をまとめ友電会に送られてきました。

■■■ 宮古漁協 大井組合長から福田國彌理事長に海産物



「福田理事長に食していただきたい」と、大井組合長が宮古工高生徒に「豊稷の海・宮古湾」で採れた海産物が託され、福田理事長に手渡されました。復興に頑張る生徒に手渡され、目を細めて「ありがとう」と受取っていました。

宮古工高生徒は、齋藤龍聖さん、館下 将さん、福館英さん。

■■■ 来賓あいさつ 福田理事長が宮古市の声に感激



宮古工業高校の生徒さんにお会いできて感激しています。昨年3月11日、本部の部屋が揺れ、建物が壊れるのではないかと思います。テレビで東北地方の被害を知り、「何かできないか」と思っていたら学生26名、教職員8名が宮古市へボランティアに行ってくれました。併せて寄付もさせていただきました。それに対し、(ビデオレターの謝辞)このような言葉をいただき感激しています。宮古工高の皆さん、大いに頑張って日本の復興に尽くしてください。

■■■ 宮古工高に激励の金一封を贈呈

「これは、緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会

の気持ちです」と、福田理事長と猿渡会長が2人で宮古工高生徒に手渡しました。この後、猿渡会長は「皆さんのご招待は学園同窓会のカンパで実現しました。同窓の心です。これからも頑張ってください」と声をかけていました。



■■■ 乾 杯 大学後援会 宮本文雄会長、 高校後援会 出雲 肇前会長が発声



緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会、友電会の総会・記念講演会の盛会、おめでとうございます。講演会は、座席が満席となり、立ち見がでるほどでした。今後ますます各同窓会の皆様のご活躍とご健勝を祈念しまして乾杯をいたします。乾杯。

■■■ 歓 談

吹奏楽団のソフトムードな演奏を楽しみながら、恩師に挨拶する姿や懐かしい同窓の再会に会話を交わす光景が会場のあちこちで見られました。

■■■ ハプニング 宮古工高応援団長 返礼のエール

「ファイト〜、ファイト〜、宮工〜」と母校応援団OB、中川氏が激励のエールを送ったことに対し、返礼のエールを送りたいと、宮古工高応援団長が1人でステージへ。「フレ〜、フレ〜、電通〜」、「サンキュウ〜、サンキュウ〜、電通〜」とエールが送られました。応援団OBらは姿勢を正しエールを受け、「ありがとう。頑張れよ」と声をかけていました。



■■■ 来賓あいさつ 橘 邦英学長

懇親会にこのように多くの方がご参加され驚いています。学生・若い人を元気にすることが日本を元気にすることだと思っています。卒業生の力で支援をお願いしたい。



■■■ 来賓あいさつ 南 茂夫元学長

就職に強い電通大と実学の電通大の復活を願っています。技術は使う人のことを考えてつくるような心豊かな技術屋を養成していただきたいと思います。



■■■ 中締め 猿渡 洋友電会会長と

菅野氏がスクラム組んで「我らが絆」を熱唱

猿渡会長 「今年度の活動テーマは『心はひとつ』です。心を合わせ、力を合わせようというものです」



菅野氏 「宮古の皆さんに成り代わり支援に感謝いたします。昨年は学生らがスクールバスで18時間もかけてがれき処理に来てくれたり、名前も名乗らず同窓が支援に駆けつけてくれています。本日持参したお酒は宮古市の企業からの感謝の気持ちです。今後も支援をよろしく願います」



歓談のバックに心地よい演奏を流す母校のブラスバンド部員たち



会場を埋める参加者

(この後、ボロ作詞作曲の「我らが絆」の曲が会場に流れ、同窓がスクラム組んで歌いました)

閉 会

司会の藤本氏が感激の閉会の辞

皆さん、今年の懇親会の感想はいかがでしたでしょうか。私は友電会の歴史に残る懇親会だったと思います。ビデオレターに登場した子供たちのあの笑顔。一生忘れることができません。「小さな大学でもできることがある」と言われた福田理事長の言葉のとおりで、我々も力を合わせ東北へのボランティア活動をしようではありませんか。本日はありがとうございました。



＊ 合同懇親会式次第 ＊

- ◆ 出席者記念撮影 (緑樹会、高校同窓会、クラブ同窓会・友電会に分けて撮影)
 - ◆ 黙 禱
 - ◆ 開会宣言
 - ◆ 主催者代表挨拶
 - ◆ 学園歌斉唱
 - ◆ 来賓あいさつ
 - ◆ ビデオレター紹介
 - ◆ 宮古海産物贈呈
 - ◆ 来賓あいさつ
 - ◆ 金一封贈呈
 - ◆ 乾杯の音頭
 - ◆ 歓 談 (吹奏楽団演奏)
 - ◆ 祝電披露
 - ◆ 来賓あいさつ
 - ◆ 来賓あいさつ
 - ◆ 歓 談
 - ◆ 中締め及び閉会宣言
- 新 宅 寛 総会合同懇親会実行委員長
森 強 高校同窓会会長
リーダー 応援団OB第18代副団長 中 川 卓
他3名
〔演奏〕 吹奏楽団
山野目 弘 宮古工業高校校長代理
大 井 誠 治 宮古漁協組合長他
宮古工業高校生徒から福田國彌理事長へ
福 田 國 彌 理事長
福田理事長と友電会から宮古工業高校へ
宮 本 文 雄 大学後援会会長
出 雲 肇 前高校後援会会長
橘 邦 英 学長
南 茂 夫 元学長
猿 渡 洋 友電会会長
菅 野 和 夫 評議員

電通高校生と交流

- ❖ 宮古工高校生と電通高校生、懇親会で交流
- ❖ 両高校生、夜の梅田界隈を探索
- ❖ 引率の山野目教諭から丁寧な感謝のお便り



懇親会には津波の講演を終えた宮古工業高の生徒3人と大阪電通高校生徒会の櫻井 彰会長ら8人も駆けつけて交流。櫻井さんらは持参したタオルやボールペン、電通高校のパンフレット、うちわなどの記念品を贈りました。両校の生徒は、ジュースを飲み、食事を楽しみながらそれぞれの高校自慢に花を咲かせていました。

両校の生徒らは懇親会の後、安 弘事務局長の案内で宿泊する大阪・中津のホテルへ移動。ホテル近くのレストランで食事をともにしました。さらに、一部は電通高校生の案内で梅田界隈へ夜の探索に出動、門限の午後9時ぎりぎりまで友好を深めていました。

宮古工業高の齋藤龍聖さんは「電通高校の人たちと別れてホテルに帰ってからみんな眠れず、それぞれ午前3時ごろまでテレビを見ていました」と、被災地を離れてのイベント参加を心から喜んでいる様子でした。

なお後日、山野目 弘教諭から友電会へ礼状が送られてきました。「ご多忙かつお疲れのところ電通高校との交流会、震災後の神戸市内の見学、空港までお見送り、絶大なる感謝いたします。そのうえ、義援金まで頂いて本当にありがとうございます。生徒は大阪、神戸の思い出は感無量と言って喜び、毎日過ごしています」と、丁寧な感謝の言葉が綴られていました。

《宮古周辺の津波被害と実演会》

岩手県立宮古工業高校 機械科 津波模型班

説明者

岩手県立宮古工業高校機械科3年

福舘 英さん 舘下 将さん 齋藤龍聖さん

(引率) 山野目 弘 同校教諭

模型を使った津波実演で防災意識向上 宮古工業高・津波模型班講演 悲しい過去の歴史から言い伝え、 「津波てんでんこ」

『津波の語り部』といわれる岩手県立宮古工業高校・津波模型班による講演「平成24年度 宮古周辺の津波被害と実演会」は、橘学長、藤田校長による記念講演会・パネルディスカッションに続いて孔雀の間で行われました。昨年の3・11東日本大震災の津波被害予測について、100枚を超える写真や表、図を駆使した報告がありました。

● 津波実演で危機意識の高揚

今回のこのような機会をあたえていただき、とても感謝しています

津波模型班ですが、発足して8年目となります。岩手県沿岸部は、地震と津波が背中合わせの状態に住んでいます。津波実演を通して危機意識が高まるように模型を作り始めたのが津波模型班の始まりです。先輩方はこれまで7年間で9基の模型を製作、58回実演会を行い、多くの人たちにご覧いただきました。

● 津波被害、事前に予測

スーパー堤防(田老地区)を備えていながら、大津波の前に、なす術もなかった宮古市特有の特異な地理的条件。模型班は自分達の活動から、このことを予測していました。

巨大津波が三陸海岸を襲う



宮古湾の奥は

宮古湾の奥は遠浅で三陸海岸では珍しい湾ですが、津波対策で防潮堤が完備されていても大津波の時は簡単に防潮堤を乗り越えると想定していました。

宮古はベニヤ工場が多く材料の輸入原木が埠頭に10万本置かれています。大津波を受けると木材が流れ出し、湾内や堤防を越え建物に大きな被害を与えるという予測が的中しました。

● 過去から学ぶ「津波てんでんこ」

みなさんは「津波てんでんこ」という言葉を聞いたことがありますか。これは、100年以上前の明治三陸津波の後、地元で生まれた言葉です。津波で逃げる、避難する時は親も子も関係ない、それぞれ各自がてんでんに逃げて『自分の命は自分で守れ』という、とても寂しく辛い言葉です。

● 東日本大震災は？

3・11東北地方太平洋沖地震津波。栗原市を筆頭に北

海道稚内から鹿児島県まで、とにかく日本中が揺れました。破壊継続時間は約170秒間で6時間に7回津波が発生しています。地震で津波が発生し、最大遡上高さは、宮古市重茂の姉古地区で40.5メートルでした。



● 実演の津波被害実証された

市内から南へ約10キロ、私たちの学校があり、冬には白鳥や鮭が来ます。高浜・津軽石地区の模型で土地が低く、海は遠浅で4キロ進んで10メートルの深さです。学校付近の様子は海に向かって壊滅状態でした。スーパー堤防と称賛され、津波から町を守ることが出来ると期待が大きかった田老地区については、宮古から北へ13.5キロ離れたところにあります。堤防は無残に破壊されました。

● 悲劇語り継ぐ

啓発活動を行って8年目です。昨年は3・11の津波で未曾有の被害を受けましたが、私たちの周辺の小学生、中学生は学校にいた全員が無事でした。ただ、残念なのは親が連れて帰ったあと津波にのまれ親子ともども犠牲になったことです。今回の震災で宮古市と山田町では1,024名の方が亡くなり、未だ行方の分からない方が250名います。このような悲劇を繰り返さないよう私たちは語り継ぎと称し、文集を作り、みんなで共通の悲しみとしています。悲劇が繰り返されないよう後世に伝え、実演会を通して危機意識が図られるように活動を継続していかなければならないと思っています。



4. 津波模型を使った取り組み(H19)

とうほく☆地域を守る防災コンテスト

長い間、ありがとうございました。報告会は初めての体験で大変でしたが、分かっていただけでしょか。私たちは来年の3月まで実演会を行います。いろんな体験をし、学び、社会で活躍したいと思っています。



昨年の「3・11東日本大震災」の津波被害予測を写真やパネルで説明する宮古工業高校津波模型班の生徒たち。津波発生からの予測に会場からは驚きの声が上がっていました。

「キャリア支援講座」にOB講師派遣

大学の正規授業にOB講師派遣

自分探し、社会に役立つ人材育成目指す企業社長や自衛隊高級幹部ら5人

友電会は母校の正規授業「キャリア支援講座」に全学科共通科目の「キャリア概論」と「ブレインターンシップ」の2科目に、初めて講師を派遣しました。輝かしい社会経験を持つ同窓を講師として派遣、受講生の後輩の皆さんには将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現してほしいとの願いが込められています。今年は計5回を計画、6月から7月にかけて「キャリア概論」で3回、「ブレインターンシップ」では2回の講座を終えました。詳しい講座の様子は友電会ホームページをご覧ください。

母校のキャリア支援

低年次から就労意識と大学生活の有意義な過ごし方の意識の向上を図り、自分の将来や生き方および職業を視野に入れ、目標をもって学修に取り組むために、キャリア形成科目を導入しています。

その結果、学生が今の自分と将来の自分を見つめ、行動できるようになり、積極的に学修に取り組み、今後の厳しい就職状況に立ち向かい、自分に適合した職業選択や勤労意欲の形成をすることができます。

<キャリア支援講座>>>>>>>>>>

学生に対して低年次から就労意識と大学生活の有意義な過ごし方の意識の向上を図り、自分の将来や生き方および職業を視野に入れ、目標をもって学修に取り組めるキャリア形成支援を行うためのものです。仕事・職業を含めた、自立した個人としての自分らしい人生のあり方、つまり「仕事と人生」を教えることを重視しており、1年生から3年生まで一貫したキャリア支援プログラムを整備し、学生が今の自分と将来の自分を考え、行動できるようにするために、時期に合わせた支援プログラムを開講します。

[illegible]

インターンとして企業で一定期間、実地研修により興味のある職業や学びの延長にある職業を体験することができる制度で、主に大学3年次の夏休みに実施されています。本学では単位に認定されるインターンシップと自由に応募できるインターンシップの2種類があります。特に単位を認定されるインターンシップに参加する場合は事前研修(プレインターンシップ)があり、あいさつや敬語、社会生活を営む上での基本的なマナーを学んだ上で参加しますので、より社会性を身に付けることができます。

第1回 キャリア支援講座

日時●平成24年6月7日

場所●寢屋川キャンパスJ号館507号室

講師 ● KKスリーシステム社長

観野 福太郎氏(電子工学科4期)



「ブランドは自分がつくるもの」
「自分に合うのが、いい大学・いい会社」
観野・法人評議員が後輩にキャリア教育



機械工学科3、4年生75名が受講しました。大学進学から就職してからのキャリアアップ、注目企業の動向・盛衰など多岐にわたる実学に、受講生の集中は90分間途切れることはありませんでした。

講義は「ブレインターンシップ」をテーマに行われました。観野氏は聴講生に配布された資料を基に講義を進めました。

講義に入る前座として数項目の質問を出しました。「母校進学は自身の選択?」、「誰の薦めで?」、「父親の年齢は?」、「自宅通学の有無は?」、「クラブ活動への参加は?」

…。その結果、自身の選択で母校を選んだ学生が多く、地方出身者が少なく、クラブ活動への参加が少なかった回答に観野氏は、クラブ活動のあり方や地方を見据えた大学運営の方法を模索する必要を痛感した様子でした。

この後、本題に入りました。「いい大学、会社は自分に合った大学であり会社です。一流企業のブランドは、自分でつくるもの」とし、「皆さんの財産は若さ。可能性が無限にある。友人を財産に新しい夢・道にチャレンジして下さい」と話しました。



母校についても「優秀なOBはたくさんいる」と言い、自身の生い立ちや社会人としてのキャリアアップを紹介しながら「悪い環境は、後で良くなるいい環境だ」と逆説的に説明しました。

豊富な資料を基に、エレクトロニクス産業における技術・ビジネスイノベーションと起業動向、エレクトロニクス分野の動向などにも触れ、具体的な会社名を挙げながら説明されました。精力的な営業と豊富な人脈を生かしながら自身、小さな会社を一部上場企業に育て上げた実体験を持つだけに、説得力は抜群。学生や機械化の先生たちは、授業時間いっぱいの90分間、観野氏の講義に釘付け状態でした。

豊富な資料を基に、エレクトロニクス産業における技術・ビジネスイノベーションと起業動向、エレクトロニクス分野の動向などにも触れ、具体的な会社名を挙げながら説明されました。精力的な営業と豊富な人脈を生かしながら自身、小さな会社を一部上場企業に育て上げた実体験を持つだけに、説得力は抜群。学生や機械化の先生たちは、授業時間いっぱいの90分間、観野氏の講義に釘付け状態でした。

同科4年の小林 剛さん(22)と同、竹内康平さん(21)は「めったに聞けない話が多く楽しかった」、「実社会の現実が身近に感じられて参考になった」と話していました。

第2回 キャリア支援講座

日時●平成24年6月12日
場所●寝屋川キャンパスJ号館308号室
講師●元海上自衛隊幹部
福田 武氏(電子工学科2期)



就職に必要なのは「やる気」 日本の常識は世界の常識と違う

海上自衛隊護衛艦艦長など歴任した福田氏は、世界の常識と異なる日本の常識や現役を退いた後の生き方などを披露しました。

受講したのは機械工学科の1年生約60人。福田氏は母校卒業後、海上自衛隊幹部候補生学校に進んだ経緯や学力

と体力の向上を目指して防衛大学校出身者90人、一般大学出身者40人の同期生と競った1年間の学生生活の一端を紹介。



卒業後は護衛艦や補給艦の艦長など歴任、カンボジアへのPKO派遣を経験したことを披露。自衛隊の呼称が外国で理解されないことや国の象徴である国旗に対する外国人と日本人の認識の違い、発展途上国の陰の部分など自身の貴重な経験を踏まえながら説明しました。

平成9年に海上自衛隊を退職した後、佐世保市にある社員30人足らずの民間会社に就職したという福田氏は、首都圏と地方の賃金格差などを紹介。さらに、民間会社を退



職後、発達障害の子供たちの塾を開いているという福田氏は、聴講している学生に「健康

な子供を育てるには夫婦円満が大事」とアドバイスしていました。

4隻の護衛艦艦長や学校教官、監察官などの職務を歴任、27歳で結婚してから九州から青森まで計15回転勤したという福田氏は、指揮官として多くの部下に接し、部隊を動かしてきた経験を通して自分の体験から、毎日を充実して暮らすには「自分自身の心、気持ち次第」とし、「就職に必要なのはやる気。やる気があれば何でも出来る」と話していました。

第3回 キャリア支援講座

日時●平成24年6月18日
場所●寝屋川キャンパスJ号館708号室
講師●元滋賀県立彦根工業高校校長
廣谷 明氏(通信工学科12期)



変化を大きなチャンスに 企業は社会人基礎力求める

臨時講師から校長まで教育現場で7つの職務に関わったという廣谷氏は、決して平坦ではなかった自分の教育者人生を紹介しながら「与えられた機会に向きあって…」と、困



難にあっては前に一步踏み出す生き方をするよう学生らに話しました。

講義には、機械工学と情報工学両科の

2年生52人が聴講した。1976（昭和51）年、母校工学部通信工学科を卒業した廣谷氏は、同年4月、滋賀県立彦根西高校の臨時講師になった。以後、2012（平成24）年3月に滋賀県立彦根工業高校校長で退職するまで教育に携わってきました。

「教育に臨時職はない」という廣谷氏は、臨時講師からのスタートを「逆にバネにした」とし、自身の教育人生の中で31歳から約10年間勤めた実習教諭時代について触れた。とくに苦勞の末に就任した初の担任としての3年間の生徒やその家族、地域と向き合ったがむしゃら人生を紹介。教えながら自分が学び、体験を通して感じる喜びなどを具体的な事例を挙げて話していました。

「内向き志向の若者が多い」というデータを紹介した廣谷氏は、企業が求める人材について「社会人基礎力が重視されている」とし、前に一步踏み出す力、実行力、主体性、考え抜く力などが必要と説明。不透明な時代には「雲が晴れるのを待つのでなく、一步踏み出して突き抜けるしかない」とし、これからは「ピンチをチャンスに変えることが求められている」とアドバイスした。

学生の質問にも答え、「人が好きで教育者になった」という廣谷氏は、教師を目指す学生には「相談があれば、いつでもどうぞ」と課外授業にも応じる姿勢を示していました。



第4回 キャリア支援講座

日時●平成24年7月19日

場所●寝屋川キャンパスJ号館407号室

講師●元NTT職員

岩本 吉男氏(通信工学科5期)



目標を決めて努力すれば必ず実現 自分探して仕事発見、楽しい人生 勉強以外にいろんな経験を

「自分のしたいことを仕事に繋げ、目標を決めて楽しい人生を」と説きました。

講義には電気電子工学科、電子機械工学科の2年生合わせて48名が出席しました。「自分の夢 目標は？」がメインテーマの講義は、学生への質問からスタートしました。「夢、目標が決まっている人、漠然とある人、決めている人はそれぞれ手を挙げて」。この質問で挙手が多かったのは「漠然とある人」。次いで「決まっていない」の3人、「決めている」の2人でした。

岩本さんは和歌山県出身で、昭和39年に和歌山工業高校を卒業。同44年に母校通信工学科を卒業して同年、日本電信電話公社(現NTT)に就職しました。主に研究開発



の仕事に携わり、後に知的財産保護に携わってきました。

「好きなアマチュア無線の延長で就職希望は放送局だった」という岩本さんが、放送局より、はるかに倍率が高い日本電信電話公社の試験に受かったのは「家庭教師での数学、英語の勉強が役立った」と明かし、入社当初は「こんなところで自分に勤まるのか？」という不安にさいなまれたが、目標を持って我慢して努力すれば必ず結果はついてくる」と不安感払拭の条件を明かしました。

岩本さんが勧める仕事探しは、まず自分自身の特徴をみつける自分探しから。短所と長所を見極めたうえで、夢や目標に向かうこと。長所はいわば、自分が潜在的に好きな部分で、その好きな事を仕事にすることは人生の喜びに通じると解説しました。

「大企業は人数で一つの仕事をやるので自分は組織の部分になる。中企業は自分に任される範囲が広がるので面白いという意味でどちらがいいのか?」。自分を生かせる職場を見つけることも大切だと話しました。

「大企業は人数で一つの仕事をやるので自分は組織の部分になる。中企業は自分に任される範囲が広がるので面白いという意味でどちらがいいのか?」。自分を生かせる職場を見つけることも大切だと話しました。



就職試験へのアドバイスもありました。「自分の才能を十分発揮させるには周囲の人と協調して進める必要がある。自己表現力、論理的な思考が必要」とし、授業に参加した玉井真理子講師に知らされた班別の勉強「グループワーク」について「入社試験ではグループ討論させるところがある。そうした場で自分なりの意見が言えるようにしないといけない」と就職試験勝利への道を示していました。

授業を聴講していた玉井講師の「在学中に感じたことや電通大学の魅力は？」との質問には「勉強は大事だが授業以外にもいろんなことを経験して欲しい」といい、「自分は和歌山から通学しながら軟式テニス部で練習し、家庭教師のアルバイトもした。授業以外から学んだことが(後の人生に)効いた」と、答えていました。

第5回 キャリア支援講座

日時●平成24年7月26日

場所●寝屋川キャンパスJ号館409号室

講師●元海上自衛隊幹部

川口 明良氏(通信工学科4期)



必要なのは人間関係や情報活用など マニュアルより状況判断

海上自衛隊対潜哨戒機の機長として4,000時間の飛行記録を持つ元海上自衛隊幹部、川口明良氏が教壇に立ちました。コミュニケーションの必要性やマニュアルにとられない危機管理など4つのプロセスをポイントに挙げました。

講義には基礎理工学科、通信工学科の2年生など約20人が受講しました。母校を卒業後、海上自衛隊の一般幹部候補生として入隊、適性をかわれて対潜哨戒機の機長や現防衛省勤務、基地勤務などを経て、現在、民間会社の技術部長をされています。

タイトルは「公務員として、会社員として」。自衛隊から民間企業に移った川口氏は、自身の経歴を披露した後、キャ

リア教育のポイントに「人間関係形成(コミュニケーション)」、「情報活用」、「将来設計」、「意志決定」の4つを挙げました。川口さんは、大学卒業から就職、そして民間企業への転身人生で「私は、この4つのプロセスを使ってきた。今も使っている」とし、「私が今日話す中で、この4つのポイントを理解して下さい」とアドバイスしました。

自衛官として33年、民間に移って11年。遭遇した具体的な事例のいくつかに、北海道・松前町で基地司令だった



時、ハレンチな罪を犯した部下への対応、行方不明者捜索にあたっての決断一などの話を披露しまし

た。罪は罪として認めさせながら温情ある懲罰を下し、行方不明者捜索では一刻も早い救命のため、知事の正式な応援要請を待たず訓練名目で捜索チームを現場派遣した、と

「大事なものはマニュアルではなく状況判断。規則通りにやっても人について来ない」。川口さんは「部下だった下士官が今でも集まりに呼んでくれるのが、自分の



勲章」と言い、その背景には「普段の生活の中での部下とのコミュニケーション。酒を酌み交わしての情報収集が難しい今、必要なのは、普段の生活状態を見て異変を事前に察知すること」と話しました。

講義の後の質疑で電気電子工学科2年、西本準平さん(19)は「チームワークやリーダーシップについて漠然としか分らなかったことが、川口さんの経験を通した講義で見えてきました。相手の立場にたって考えるというアドバイスはイジメの問題にも通じるものがあります」と話していました。

川口さんは、講義終了後、アフリカ・ジブチに派遣されていた後輩の航空司令から土産にもらったというキャップを被り、海上自衛隊式の敬礼をして見せました=写真=。



支部だより

平成24年度 大阪電気通信大学

友電会びわこ支部総会

～総会記念事業「これからの人材育成について語る」～
森 幸治就職部長を招き、母校の入試と就職への支援方針

友電会びわこ支部の平成24年度総会が8月4日(土)午後2時から、滋賀県草津市の草津市立市民プラザ「フェリ工南草津小会議室」で開かれました。総会の後の記念事業では、母校の森 幸治就職部長を招き「これからの人材育成について」をテーマに、パネルディスカッション。キャリア教育支援や就職支援などが話し合われました。

◆びわこ支部総会

総会には約30人が出席して開かれ、支部規定改正や平成24年度役員改選案など4議題が審議され、いずれも承認されました。役員改選では新たな支部長に澤居比佐夫氏(H17)が選ばれました。母校の入試と就職を支援するため支部規定の改定、教育と企業の両部会の設置を決めました。

◆パネルディスカッション

テーマ 「これからの人材育成」



「これからの人材育成」をテーマに行われたパネルディスカッション。母校のキャリア教育や就職支援について真剣な討議が行われました。

総会記念事業は支部メンバーの廣谷 明・法人評議員(F12)がコーディネーター役となり進行了。パネリストは、元NTT技術部勤務の廣澤 洋氏(F03)、企業オーナーの中山 修氏(F06)と大

平富義氏(H08)、教育関係では中学校教諭の澤居比佐夫氏(H17)、工業高校校長の堀江健二郎氏(H14)、友電会副会長の川口明良氏(F04)、それに母校の森就職部長。

パネリストが自己紹介した後、森就職部長が就職支援の現状と友電会メンバーOBによるキャリア教育などへの支援について、次のように述べられました。

「学生さんが将来、仕事を得て社会にはばたくにあたってキャ



友電会とのタグをお願いしたいと語る森就職部長。

リア教育が必要。我々の授業の中で友電会の方々に来て頂き、社会人経験のお話をさせて頂いています。就職部の担当者が学生の就職支援をするわけですから『IT業界』を代表して友電会メンバーの社長に業界の今後や大学に望むことなどお話し頂きました。就職問題は入試に直結しており、就職ができるかできないかで大学を選ぶという時代になっています。友電会とのタグが必要」として友電会の協力を要請しました。

これに対し友電会側のパネリストから、「キャリア教育に対する支援や就職支援活動に取り組んでいきたい」と話していました。

◆懇親会

論議の後、懇親会。パネルディスカッションで語りきれなかった課題を含めてそれぞれが語り合っていました。



母校支援活動の推進を熱く語り合った「びわこ支部総会・懇親会」。森就職部長も大きな期待を寄せていました。

平成24年度 大阪電気通信大学

神戸支部総会・懇親会

34人が集い神戸支部総会開く

先端医療の講演に感嘆、会場和むコンサートも

友電会神戸支部の平成24年度支部総会・懇親会が4月24日、神戸市中央区のホテル神戸東急インで開かれました。

総会は池本善一会長(E02)のあいさつに続き、薬井安二氏(I06)を議長に開かれました。平成23年度実施事業・収支決算報告、平成24年度事業計画・収支予算案が報告され、支部の新役員が報告、承認されました。

◆講演では、山口氏が先端医療機器について話す



記念講演した山口氏。興味深い先端医療機器の説明に参加者は聞き入っていました。

総会の後、大阪府・医療機器専門相談員の山口朝弘氏(F05)が「医療産業に関与して40年」と題して講演、長年携わった医療機器にまつわる知識を披露しました。昭和44年、同期生4人と医療機器の世界に飛び込んだという山口氏は、「医療機器との出会い」や「臨床工学

技士について」解説。さらに、心電図やその検査法、治療手法、医療機器開発・販売に関する日本のメーカーの姿勢と世界のメーカーの相違などについて説明していました。

◆懇親会では、「ザ・ブルーサンダーボーイズ」が熱唱
会場内の各テーブルでは、近況報告や思い出話を肴に歓談。OB 3人のフォークグループ「ザ・ブルーサンダーボーイズ」は、ギターとハーモニカの演奏、さわやかな歌声で会場を盛り上げ、和やかな雰囲気の中、記念撮影をして閉会しました。



平成24年度神戸支部総会・懇親会に参加された皆さん。山口氏の講演やフォークグループ「ザ・ブルーサンダーボーイズ」の歌声を満喫していました。

平成24年度 大阪電気通信大学

友電会三田支部総会

屋外の山荘で総会 三田支部、家族参加で和やかにバーベキューも

友電会三田支部平成24年度総会と懇親会が5月27日、三田市のしい草園有馬富士「山荘かえで」で開かれました。



新役員でスタートをきった三田支部。一般参加の多い支部として定評があります。

◆三田新支部長に小西氏が就任

三田支部メンバーのほか、友電会の川口明良理事(F04)、藤本 明(I06)理事、大学事務局の池宮達雄事務局長ら21人が参加しました。田中俊介幹事(E18)が議長を務めた総会では、平成23年度活動報告・収支決算報告、平成24年度事業計画・予算案を拍手で承認、新しい役員7人も決まりました。新支部長は小西 巖氏(E02)、副支部長は神楽岡 功氏(F02)で任期は2年です。

◆懇親会は、三田牛と椎茸でバーベキュー

続いて行われた懇親会では、椎茸狩りをした後、爽やかな山の風が吹き抜ける山小屋風のロッジでバーベキューを満喫。三田の肉だけでなく、採ったばかりの椎茸も早速、網にかけられ、肉厚でジューシーな味を満喫しました。



平成24年度 大阪電気通信大学

友電会東海総支部七日島研修会報告

友電会の東海総支部は平成24年8月25日(土)～26日(日)に三重県五ヶ所湾に浮かぶ七日島で研修会を行いました。

七日島は無人島で、日本電話施設株式会社の研修施設を借用し、俗界から離れた自然環境



無人島・七日島で親睦を深め合った東海総支部員。支部活性化について熱い議論を朝方まで語り合いました。

の中で心身共にリフレッシュ。参加者同士お互いをよく知り合い親睦を深める目的で計画しました。

参加者は7名でしたが、三重県在住の会員の参加もあつたうえ、支部の活性化について話し合うなど、有意義な研修会となりました。天気にも恵まれ話も弾んで盛り上がり、大いに親睦を深める事が出来ました。

平成24年度 大阪電気通信大学

友電会北関東支部総会報告

友電会関東総支部北関東支部総会・懇親会を開催
防災に歴史あり「耐火考えた建物に感嘆」

平成24年度友電会北関東支部総会・懇親会は6月2日(土)、東武東上線川越駅周辺で開催しました。当日は天気も良く、初参加の会員お一人を含め14名の方の参加を戴きました。

今年のテーマ「郷土歴史探求」。蔵造り資料館見学へ向けて出発しました。蔵造り資料館は明治26年(1893年)3月に発生した川越大火(川越の1/3を焼失)の直後、当時煙草小売商を営んでいた4代目小山文造氏が建設したものです。店蔵(店舗)奥にある3つの蔵及び居住スペースから成り立っており、特に蔵を中心に耐火性を考えて造られており、庇等は建屋内部と繋がっておらず単に独立した金具に引っ掛けて有るだけとの事でした。

見学後、総会・懇親会場へ移動しました。総会では北関東支部として6月23日友電会総会に向け出席、または委任状の集約を申し合わせた後、懇親会となりました。出席された方々による自己紹介や現在の状況の話があり、特に関東へ単身赴任中で全くの初参加の方の話には、皆さん熱心に聞き入っていました。(山口文男 記)



郷土の歴史探求で「蔵造り資料館」を見学した北関東支部会員ら。

トピックス

宮古湾で中央遠く
右に2隻小さく浮
かんだ姿を見せる
宮古OECU丸



同窓から朗報・母校復興支援で 寄贈の和船3隻の活躍ぶりが届く

漁業の街、岩手・宮古市の海で、休まず水しぶきを上げ活躍
「宮古OECU丸」の勇姿に同窓も復興に奮い立つ



宮古市港湾の海に浮
かぶ第1宮古OECU
丸。真っ白な船体の
船首に大学名を冠し
た姿に卒業生は心を
新たにしています。

漁業の街、岩手県宮古市 東日本大震災か
らの復旧・復興を支援する母校・大阪電気通
信大学は和船3隻を本年2月、寄贈したこと
は「友電会誌115号総会号」に掲載しました。

岩手県久慈市で復興の仕事をしておられる
同窓の村松宏亮氏（K33）が、宮古漁協へ出
向き、和船の消息を知らせてくれました。

便りによりますと、「和船の宮古OECU丸
の3隻とも宮古市で立派に休むことなく活躍
していた」と。この朗報を福田國彌理事長に
知らせたところ、「遠い大阪から海に出るため
の手続きに手間取っているとの消息で気に掛
けていました。うれしい知らせです」と、大
学関係者ともども安堵し喜んでいました。

以下、村松氏の許可を得て、「宮古OECU
丸」が復旧・復興支援に活躍している便りを
紹介します。

お世話になります。日本電話施設(株)村松です。

先週、久しぶりに静岡に戻りましたところ、友電会会報が
届いており内容を読みました。宮古OECU丸の記事が出てお
りましたので、会議の合間をぬいまして同船の姿を確認して
きました。宮古漁協様の理解をいただきまして、港湾口より
停泊中の舟の説明を受けました。

寄贈された3艇は、1艇が指導舟（湾内での通行許可証の
渡しや誘導用に使用）、2艇が若干の改造をされ定置網漁用
に使用されているそうです。漁協様曰く、「船体とエンジンの
バランスが非常にうまく取れており、休むことなく稼働して
いる」という大変ありがたいお言葉をいただきました。

現在、私は震災直後より岩手県内のNTT東日本様の電気通
信設備網の復興工事に従事しております。壊滅的なダメージ
を受けた設備を新しくし、設備信頼度を向上させる物であり
ます。本日、キラキラととりりしく海に浮いている宮古OECU
丸を見て、気持ちを新たにすることができました。

再度、気持ちを引き締め、無事故無災害にて来年3月の竣
工を迎えたいと思います。

「丹後半島ラリー 2012」 丹後半島で初の全日本ラリー

大阪電気通信大学 体育会自動車部が主催 林道疾走の高速走行に魅了



「大阪電気通信大学友電会寄贈」な
どと書かれた出発ゲート前で記念
撮影する橘学長と(左端)と猿渡会
長、観野・法人評議員(右の2人)

大阪電気通信大学体
育会自動車部が主催した
日本自動車連盟(JAF)公
認の全日本ラリー選手権
第6戦「第48回大阪電
気通信大学チャリティー
ラリー 丹後半島ラリー
2012」が8月25、26
の両日、京丹後市の丹後

縦貫道路で行われました。全日本大会を大学自動車部が主
催するのは初めてのうえ、国内最高峰のレースが京都府北
部で行われるのも初とあって2日間で計約650人の観客
が詰めかけ、爆音をあげて林道を疾走するラリーカーに魅
了されていました。＜詳細は次号に掲載します＞

レースに先立つ24日には、京丹後市役所駐車場でセレ
モニアルスタートが行われ、大会会長として母校の橘 邦
英・学長、同副会長の猿渡 洋・友電会会長、それに観野
福太郎・法人評議員が出席しました。橘学長と猿渡会長
は、ゲートを抜け次々にスタートするラリー車に、手に
した日の丸を上げて出発の合図を送っていました。出発
ゲート製作には友電会からも補助金を提供しました。

開会式で橘学長は母校の自動車部が1963年からチャ
リティーラリーを続けていることを紹介したうえで、「学生
生活の中でのクラブ活動はその後の人生に重要な指針を与
えます」などと、クラブ活動の意義を紹介しました。

このラリーの模
様は、産経新聞(8
月26日付京都版)
と京都新聞(同、丹
後中丹版)に掲載さ
れました。



母校の自動車部員を激励する橘学長ら

神戸支部がロボット製作講習会

紙コップの相撲ロボづくりに挑戦 夏休み中の小学生ら26人参加

友電会神戸支部（池本善一会長）は7月28日、神戸市長田区の神戸ロボット工房で、ロボット製作講習会を実施しました。3年前から実施している企画で、この日は5歳から小学6年生までの男女計26人が参加して紙コップの相撲ロボットを製作しました。

神戸支部の行事で、支部からは池本会長と田中二郎さん、それに母校の池宮達夫・事務局長も駆けつけました。講師は、母校のOBで、ロボット教室の実績を持つ専門学校講師、大野一廣さんが担当しました。



紙コップの相撲ロボット作りをする子供たち。自慢げに「ドヤ顔」をしながらも真剣に取り組んでいました。

この日は、同工房の夏休み工作教室「紙相撲ロボットをつくろう」として開催されました。教室には、事前に申し込んだ5歳から小学校6年生までの男女計26人が参加しました。製作したのは「文具で作る相撲ロボット」。



難しい作業に手助けをする大野氏の奥さんと池本氏。優しく語り掛ける姿は子供大好き～。

大野講師の説明を受けた子供たちは、1人ずつに用意された材料を確かめながら製作。低学年にはやや難しい作業もあり、池本会長や田中さん、それに大野講師の妻、登美子さんらが教室内を巡って手助けし、1時間半ほどで全員が相撲ロボットを完成させました。付き添いのお父さんやお母さんに助けを求める児童も見られました。

ネコやウサギ、怒った表情の顔など完成した紙コップのロボットに思い思いの絵を描いた子供たちは、自作のロボットを手に、机の上に設けられた土俵で対戦しました。左右のモーターの回転で前進するロボットのコントロールに四苦八苦する姿も見られ、勝負が決まるごとに歓声や溜息が起こっていました。対戦後、子供たちには成績に応じた景品がプレゼントされました。

大阪電気通信大学文化会クラブ「ESS同窓会」報告

大阪電気通信大学文化会クラブ「ESS」の同窓会が平成24年8月25日(土)、大阪市北区のホテルグランヴィア大阪において開かれました。この同窓会は、2年毎に開催されており、久しぶりに会う先輩、後輩、同期生は元気な再会を喜び合っていました。

関西はもとより遙か九州、関東方面から駆けつけたESSのOB7名で、おおいに盛り上がりました。参加者は、第1期から4期生までの老体。でも精神年齢は、学生時代の勢いを保ったままの同窓会でした。今回は、前回と比べて参加者が少なかったのですが、お互いの健康に感謝しつつ学生時代の思い出、近況報告に楽しいひとときを過ごしました。

最近まで、ESSがクラブとして存続していたことから、今回は若い人たちを交えてESS同窓会を計画。同窓会は隔年開催ですが、臨時ESS同窓会(?)の実現に向けて活動を始めることになりました。



(後列左から)
池本善一、川口明良、観野福太郎
(前列左から)
福島紀男、山本茂二、玉置定明、植谷吉人

松尾邦子准教授の夫、有起氏が逝去。しめやかに葬儀・告別式

母校・大阪電気通信大学金融経済学部、松尾邦子准教授の夫、有起氏の葬儀・告別式が平成24年8月28日、東京・大田区の『公益社雪谷会館』で執り行われました。53歳でした。

友電会は猿渡 洋会長、観野福太郎法人評議員が列席、哀悼の意を表しました。あまりに早い旅立ちに多くの参列者から、惜しむ声が聞かれました。安らかに眠り下さい。合掌。

式には福田國彌理事長、橘 邦英学長、網屋雅信大学事務局長ら学園関係者多数が参列、読経の流れの中、焼香が行われました。祭壇に飾られた遺影を見上げ、最愛の夫を亡くされた松尾准教授の心情に思いを馳せていました。

亡くなられた有起氏は慶応大学で陸上部。短距離の選手として活躍。駆けつけた陸上部のOBらが、遺影をじっと見上げ、肩を振るわせながら、何か語りかけられたあと深々と頭を垂れられる姿は参列者の涙を誘っていました。

喪主あいさつに立たれた松尾准教授は、『主人は仕事人間でしたが、帰宅すると、お酒をほど良く呑み、娘と3人、家族団欒を楽しんでいました』と、悲しみをこらえ有起氏の人となり述べられていました。

なお、通夜は27日、同葬儀場で行われました。



福田理事長や橘学長、猿渡会長ら母校関係者が参列した松尾准教授の夫、有起氏の葬儀・告別式。

大阪電気通信大学・大阪電気通信大学高等学校

入試情報

大阪電気通信大学

《資料請求・問い合わせ：入試部》

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8 TEL.072-824-1131(代)
e-mail:nyushi@isc.osakac.ac.jp http://www.osakac.ac.jp

◆ 卒業生・在学生の親族優遇入学制度

大阪電気通信大学(大阪電気通信大学短期大学部)を卒業した方の親族(2親等以内)、または現在在籍する学生の親族(2親等以内)が大阪電気通信大学に入学された場合、入学金相当額の特別奨学金を給付する制度を実施しています。

◆ 入学試験成績優秀者奨学制度について

また、大学進学への支援を目的として、奨学入試制度を設けています。この制度は、入学試験成績優秀者奨学制度といい、一般入試【前期A・B日程】および【センター方式前期】において、判定基準を満たす受験生を対象に、入学後4年間、学費を免除するものです。

試験種別	学 部	出願期間	試験日	合否発表日
公募推薦入試 A・B日程	工学部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	2012年10月22日(月) ～ 10月31日(水) 窓口:11月1日(木)	A日程: 11月10日(土) B日程: 11月11日(日)	11月21日 (水)
一般入試	前期A・B 日程	2013年1月10日(木) ～ 1月21日(月) 窓口:1月22日(火)	A日程: 1月31日(木) B日程: 2月1日(金)	2月13日 (水)
	センター方式前期	2013年1月10日(木) ～ 2月1日(金) 必着	—	2月15日 (金)
	後 期	2013年2月12日(火) ～ 2月21日(木) 窓口:2月22日(金)	3月1日(金)	3月9日 (土)
	センター方式後期	2013年2月12日(火) ～ 3月1日(金) 必着	—	

大阪電気通信大学高等学校

《資料請求・問い合わせ》

〒570-0039 大阪府守口市橋波西之町1-5-18
TEL.06-6992-6261(代) FAX.06-6991-4117 http://www.dentsu.ed.jp/

◆ 大阪府在住なら高校は私立も公立も授業料無償化

● 国の制度「高等学校等就学支援金」

私立の全日制高校に在籍していれば、所得にかかわらず、年額118,800円が全員に給付されます。家庭の総所得により制限がありますが、さらに1.5倍から2倍、最大118,800円の加算給付もあります。

● 大阪府の制度「私立高校等授業料支援補助金」

保護者(学資負担者)が大阪府民で生徒が電通大高校に10月1日に在籍していれば、平成24年度は、大阪府の「私立学校等授業料支援補助金」が右記のように交付される予定です。国と大阪府を合わせると右表のようになります。

大阪府民の場合、年収610万円未満の家庭では電通大高校の授業料が実質無償となります。

電通大高校は授業料年額55万円ですから全国一律に支給される118,800円を差し引いた431,200円が授業料です。これを一括納入または、10回分納で納入していただきます。大阪府の補助金の確定後(11月頃)、返金(還付)や差し引き(相殺)をします。

所得区分のめやす (父母合算)※	国の就学 支援金(年額)	大阪府授業料 支援補助金	支援金と 補助金の合計	保護者 負担
非課税・生活保護	237,600円	312,400円	550,000円	0円
年収350万円未満	178,200円	371,800円	550,000円	
年収610万円未満	118,800円	431,200円	550,000円	
年収800万円未満	118,800円	331,200円	450,000円	100,000円
年収800万円以上	118,800円	0円	118,800円	431,200円

※所得区分はあくまで、めやすです。実際には課税ベース(市民税の所得割額)で判別されます。同じ年収の方でも、扶養する家族の人数、年齢等によって区分が異なる場合があります。

◆ 平成25(2013)年度入試説明会

説明会場 大阪電気通信大学高等学校 体育館 1階

10月7日(日)・12月8日(土)

説明会 10:00～
見学会 11:00～

11月17日(土)・12月16日(日)

説明会 13:00～
見学会 14:00～

◆ 平成25(2013)年度高等学校入試要項

学 科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
普通科 ・進学コース ・健康スポーツコース	160名	2013年 1月25日(金) ～ 2月1日(金) (土・日は受付不可) 提出先:高等学校事務部	2013年 2月9日(土) (国・数・英の筆記試験)	2013年 2月12日(火) (郵送)
電子工業科 ・理数コース ・電子情報コース ・医療電子コース ・デジタルゲーム開発コース	160名		2013年 2月10日(日) (面接試験保護者同伴)	

◎試験科目:国語、数学、英語 各100点、50分

◎両科とも男女共学

◎普通科の「健康スポーツコース」は1年次より1クラス(約40名)募集。

◎電子工業科の「理数コース」は1年次より1クラス(約40名)募集。

それ以外のコースは一括募集し、2年次にコース分けを行う。

◆ 入学金減免・奨学金支給の特待制度

2010年度から公立高校は授業料無償化、私立高校には国の就学支援金制度が始まりました。また、大阪府在住者には支援補助金も出るようになりましたので、電通大高校で実施しておりました特待制度は少し修正しまして、下記のような制度になりました。

1、2の入学金の減免は願書提出時に自己申告していただくようになっています。受験生の父母・兄弟が電通大高校卒業の場合や兄弟が電通大に在学中の場合、入学金が半額になります。是非ご子弟の進学先に電通大高校を考えて下さい。

3の入学金免除、奨学金支給は出願時の中学校の成績や試験の成績で決まりますので、申請の必要はありません。いずれも専願併願は問いません。本校に進学した場合、適用します。

1. 入学金の免除

入学生が兄弟が本校に在学中の場合。入学生が双子の場合1名分。

2. 入学金の減額(半額免除)

入学生の父母・兄弟が本校の卒業生の場合。入学生の兄弟が大阪電気通信大学に在学中の場合。

3. 入学金免除、および奨学金の支給

入学志願に提出する中学校の英語・数学・国語の評定が良好な生徒の場合と、当日の試験の成績優秀者(男子は上位20名以内、女子は上位40名以内)には入学金を免除し、奨学金(年20万円)を3年間支給する。ただし、電子工業科の場合は理数コース入学生に限る。

保護者
生徒対象

宮古市からのメッセージ ~こころはひとつ~

「復興に向けて頑張っている」、「続く支援の温かい気持ちに応えたい」

漁協組合長、宮古工業高校長、鯉ヶ崎小児童…

ビデオレター



宮古漁業協同組合長
大井 誠 治

「なくてはならない和船贈呈ありがたかった」

母校が今春、和船3隻を寄贈した宮古漁業協同組合の大井誠治組合長は、柔和な表情で感謝の気持ちを伝えました。

「東日本大震災の発生から1年と3か月が経過しましたが、国の支援、自助努力で岩手県では宮古市が一番早く産業の復興が進んでいる状況です。大阪電気通信大学様には、本当に私たち水産業にとって一番大事な生産部門である磯漁業のアワビ、ウニの採捕に無くてはならない和船を3月の20日に贈呈頂きました。大変ありがたく利用させて頂いております。復興にはまだまだ複数年かかりますけれども、漁業者一丸となって復興に向けて頑張っているところでございます」



岩手県立宮古工業高等学校
藤原 斉 校長

「温かい支援のおかげで頑張れる」、「これからも繋がり続けて…」

『感謝 宮工復活 ご支援ありがとうございます 頑張ろう宮古』。こんな垂れ幕掲げた同校の藤原校長も感謝のメッセージを届けてくれました。

「昨年の3月11日の東日本大震災で本校は壊滅的なダメージを受けてしまいました。しばらくの間、校舎が使えず他校2校に生徒を分散させて授業を行い、昨年の8月末、本校に戻ってまいりました。学校に戻ってきて授業を再開してみますと非常に足りないものがあり、どこからもお金が出ないという状況が続いている時、大阪電気通信大学の皆様が来られご支援して頂いたことで本当に助かりました。タイムリーな支援だったスノコ60枚、ペダル式昇降機、移動式作業台3台、それから加湿器3台を頂きました。生徒たちは今、実習等で作業台を有効に使用させて頂いております。生徒たちは皆さんの支援のおかげで震災に負けることなく部活動、学習にと元気に頑張っております」



三陸やまだ
漁業協同組合職員
菊池 紀 裕

「支援のパソコン有効に活用」、「今後も東北の復興応援をー」

東日本大震災発生直後の昨年6月、友電会は自治会長などされている菅野和夫氏(F03)の要請により、地域広報活動に欠かせないパソコン・プリンターを送りました。活用された三陸やまだ漁業協同組合の菊池紀裕氏の感謝のメッセージが届けられました。

「まずは、大阪電気通信大学様の支援にお礼申し上げます。昨年の大震災により、当町の漁業は全て壊滅して当三陸漁協も被災いたしました。全ての機能を失った中で機材等不足している中での支援のパソコン有効に活用させて頂きました。震災は1年が経過し、事務所も新たに開設いたしました。養殖漁業の復興へ向かって着実に進んでおります。今後とも山田町及び東北の復興の応援お願いいたします」

鯉ヶ崎小学校児童が『頑張る宣言』

母校は昨年8月、学生ボランティア隊とナガタタケシ准教授が指導した「PiKAPiKA」プロジェクトチームを鯉ヶ崎小学校へ派遣。学習発表会に参加やワークショップを展開しました。同小にはグランドピアノ運搬車1台、ブライトヒーター3台を寄贈しています。

同小の子供たちがスポーツ、音楽、芸術などに「頑張る宣言」を紹介します。児童の笑顔いっぱいの元気な姿…。それぞれ屈託のない表情で震災に負けない決意を宣言しています。夢に向かって力強く頑張る子供たちの姿の向こうには、宮古の復興がはっきり見えます。





宮古工業高校一行の 神戸巡り

「わ～すげ～、みやごどおなじだ～」

生徒ら阪神大震災の傷跡に感嘆

岩手県宮古市から「津波の語り部」高校生

友電会がカンパ集め、招待



総会・懇親会に招いた岩手県立宮古工業高校の生徒3人と引率の教諭1人は総会から一夜明けた6月24日、神戸支部メンバーらのガイドで、阪神大震災から復興した神戸市を訪れました。「震災復興の街巡り」の途中、今なお傷跡が残るメリケン波止場では、生徒らから震災の恐怖を共有した者ならではの声があがりました。

3人は齋藤龍聖さん、館下 将さん、福館 英さんで、いずれも17歳。宮古工機械科の3年生で、山野目 弘・同校教諭(59)の引率で来阪しました。

復興を果たした神戸の地を見てもらいたい

神戸訪問は総会実行委員会での協議で「阪神大震災からの復興を果たした神戸の地を見てもらいたい」との発案で実現。当日は神戸支部の池本善一・支部長、藤本 明、稲原寛法両氏のほか神戸市内に実家のある山口文男・北関東支部長、安弘事務局長と観野福太郎法人評議員、それに宮古市出身で母校の事務局に勤める早野秀樹次長も参加しました。

前日、友電会総会で講演しその後、電通高校の生徒たちと夜遅くまで交流したにもかかわらず3人は元気いっぱい。この日は午前10時にJR新長田駅前に池本支部長らと合流、神戸支部メンバーの案内で神戸市内を巡りました。

神戸ロボット工房では防災ロボットにくぎ付け

新長田駅周辺(長田区)は阪神大震災の際、火災で多くの家屋が消滅した地域。駅近くの広場には復興のシンボルともいえる鉄人28号のモニュメントがあり、高校生らは総量50トンの巨人に感嘆しきり。とくに福館さんは実家が漁船の造船所とあって興味深そうに鉄板の溶接部分を見やっていました。

鉄人28号生みの親で神戸出身の漫画家、横山光輝氏は

三国志も漫画化しており、ゆかりの三国志ギャラリーも見学しました。神戸ロボット工房では、機械科の生徒らしく防災ロボにくぎ付け。障害を乗り越えて前進・後退するロボットを操作、予定の時間をオーバーするほどでした。昼食は全国区の有名店・平壤冷麺屋で冷麺と焼き肉丼を味わいました。

崩れ落ちた波止場の爪あとに一瞬顔をこわばらせる

「わ～すげ～、みやごどおなじだ～」。生徒たちが思わず、こう口にしたのは神戸港の震災メモリアルパークでした。それまで比較的ひょうひょうと神戸巡りを楽しんでいた生徒たちの表情は、今なお震災の傷跡が残る風景を目撃し、一変しました。無残に傾いた波止場の街灯、崩れ落ち波に洗われる波止場のコンクリート…。復興した街中の無残な爪痕。生徒たちは、一瞬3・11の恐怖がよみがえったような表情を見せました。

宮古と神戸は、ともに海の町。一行は、神戸市役所24階の展望台では遠く望める瀬戸内と六甲の山並みの美しさを満喫。神戸海洋博物館も見学するなどし、この日の夕方伊丹空港から帰郷しました。

宮古復興の励みとなった神戸巡り

山野目教諭は、帰路につく大阪空港(兵庫・伊丹市)で「総会で発表できたことは心に残ります。震災から復興を果たした神戸の町を間近に見て、生徒たちも宮古復興に向けて励まされたと思います。電通高校生との交流もできれば続けていきたいです。今回の交流をきっかけに、さらに絆を深めたい」と話し、大阪を離れました。



長田の震災からの復興のシンボル、
鉄人28号の前で記念撮影



地震の傷跡が残るメリケンパークの惨状に息を飲む



三国志ギャラリーで記念撮影を
する山野目教諭と生徒



東日本大震災の東北へも出動した
レスキューロボを操る生徒たち
(ロボット工房で)



出発前、伊丹の空港で記念撮影。
宮古工業高校の生徒と山野目教諭は
大阪、神戸での温かい思いを胸に
帰路につきました

宮古工高校生と電通高校生 学園同窓会懇親会で交流

「津波の語り部」宮古工高校生と談笑する電通高校生ら

「大変でしょうが頑張ってください」、
「地震・津波被害は日頃から注意して」
など、談笑する宮古工高校生と電通
高校生。「力を合わせて頑張ろう」と
スクラムを組み誓い合っていました。
(6月23日、学園同窓会懇親会会場で)





大阪電気通信大学

東日本大震災支援活動報告

記念DVDを製作

DVDには、記念講演会や

宮古工業高・津波模型班による震災当日の様子の他、和船3隻を寄贈した宮古漁業組合らのビデオレター、宮古市立鉾ヶ崎小学校児童らの「頑張る決意」、母校の支援活動記録などが収録されています。非売品。

DVDご希望の方は友電会事務局へハガキ又はメールでお申し込みください。先着順で品切れとなり次第締め切ります。

学史編さん室

第52回

大阪電気通信大学

大学祭

テーマ

「INFINITY」

意味

楽しみは無限大



2012年11月2日(金)～4日(日) 寝屋川キャンパスにて開催！

友電会員の
懇親の場

友電会サロン「心はひとつ」

岩手・宮古市復興支援募金活動で地元自治会や市民有志が特別参加

日時：11月3日(土) 10:00～19:00
(15:30～懇親パーティー)

場所：寝屋川学舎ウイング会議室

参加費
無料

今回のサロンは、母校が実施している岩手・宮古市復興支援の活動に対し、寝屋川市日之出町自治会(浜本英義会長)や地元市民有志が「募金活動で協力したい」と特別参加します。サロンの献立は、お母さん方自慢の手料理と学生屋台料理。会員の親睦だけでなく、地元住民の方々とふれ合ってみてはいかがでしょうか。ご参加をお待ちしています。

クラブ同窓会 イベント

優秀クラブ活動表彰式

11月3日(土)

15:20～16:10

トークショー・つながり

11月3日(土)

16:20～17:50

いずれもJ号館(エデュケーションセンター)
6階小ホール

テクノフェア

入場
無料

—放射能精密測定の実演—

TECHNOFAIR

11月4日(日) 10:30～16:00 (受付 10:00～)

母校・テクノフェア実行委員会は上記日時、寝屋川キャンパスと駅前キャンパスで「テクノフェア in ねやがわ」を開催します。最先端の科学技術を身近に体験してもらいます。

当日のプログラムは「エネルギー」「のりもの」「ロボット」「レーダー」など7つの分野で次世代太陽電池の製作やハイブリッドボルシェの試乗、ロボットカーのマイコンカーラリーなどを楽しめます。「バーチャルと体験」分野ではスーパーボール、人エクラ作りが体験出来ます。参加者持参の土や食品、水の放射能レベル測定の実演もあります。

学園祭と
同時開催！

問合せ

大阪電気通信大学
寝屋川キャンパス

テクノフェア実行委員会

大阪府寝屋川市初町18-8

TEL: 072-824-1131 (代表)
techno-fair@mc2.osakac.ac.jp